



2022年度 事業報告

Report

【 2022. 4. 1 - 2023. 3. 31 】



「基本理念」

ご利用者の「健やかな生活」の実現のため、心をこめた福祉サービスの提供を
全力で実行します。

2022年度 経営報告

Purpose 人々の豊かな生活、地域社会、そして日本を支える「福祉」
私達は「誇り」を持って、日本の福祉を「創造」し、「挑戦」します

1. 総括

《はじめに》

2022年度は、新型コロナウイルスの新種への変異とその感染力の高さに翻弄される1年となりました。法人内各施設・事業所における度重なるクラスターの発生により、限られた資源・環境の中でご利用者の命を守るための迅速な対応と決断を迫られる非常に厳しい日々となりました。しかし、当法人は、高齢者、障がいをお持ちの方々の暮らしを支える社会福祉事業を運営する法人として、歩みを止めることなく覚悟を持って進んで参りました。その法人の方針を職員が理解し、共に歩んでくれたことに心から感謝と専門職としての専門性、責任感に敬意を表します。

さて、2022年度の事業方針では、ウィズコロナを1つのテーマとして、法人各施設・事業所の運営を進めていくことを事業計画に掲げました。各施設ご利用者に対しては、大切なご家族との時間を過ごしていただくことや外出等の楽しみのある生活を過ごしていただくことに勇気を持って取り組みました。また、通所・訪問、相談関係の各事業所は、可能な限り事業を継続していくことで地域に暮らす高齢者や障がいをお持ちの方の地域生活を支え続けました。当法人が運営する各施設、事業所の職員の努力により、ウィズコロナでの福祉サービスの提供とご利用者への支援を継続することができたと評価しています。

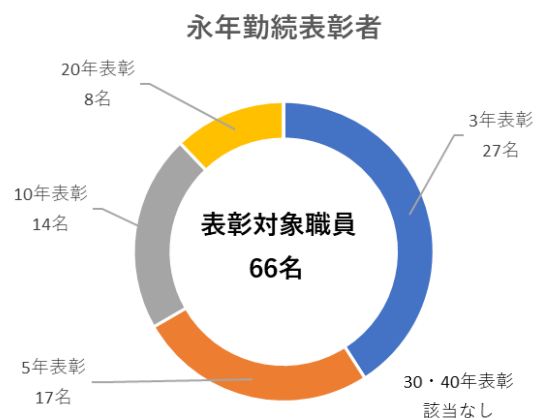
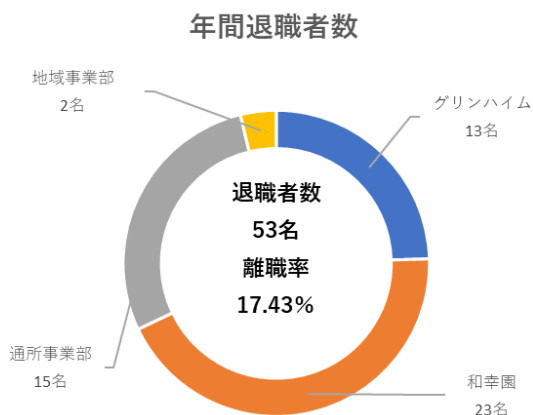
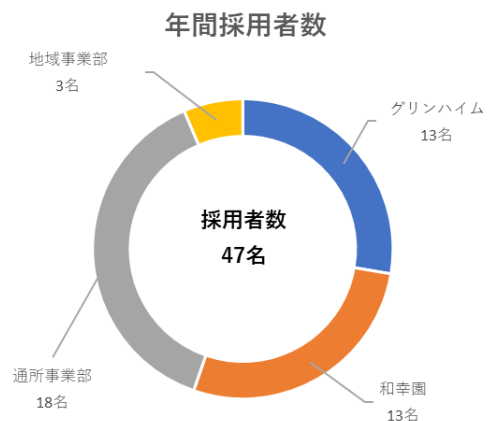
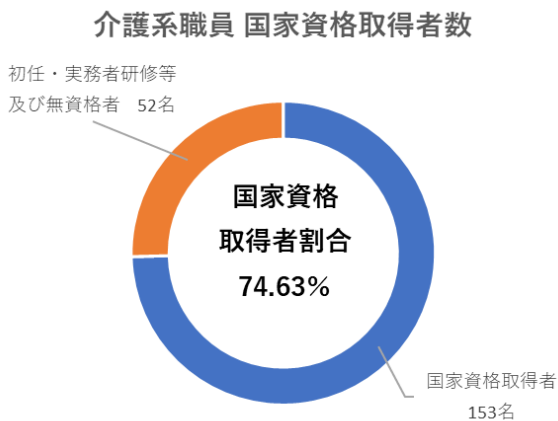
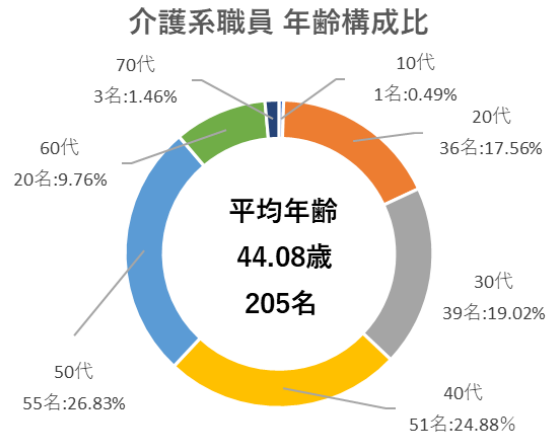
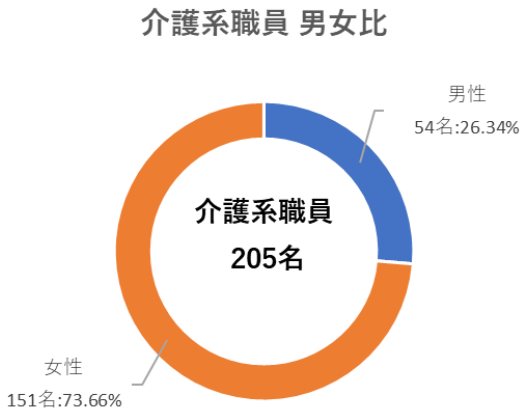
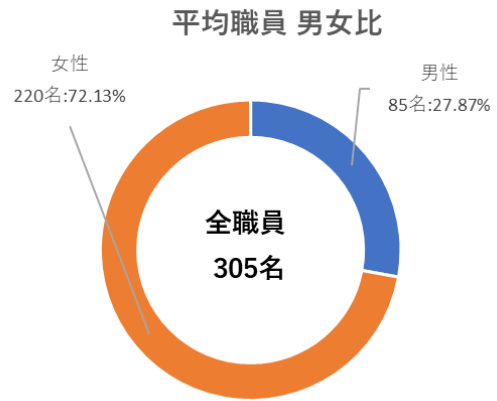
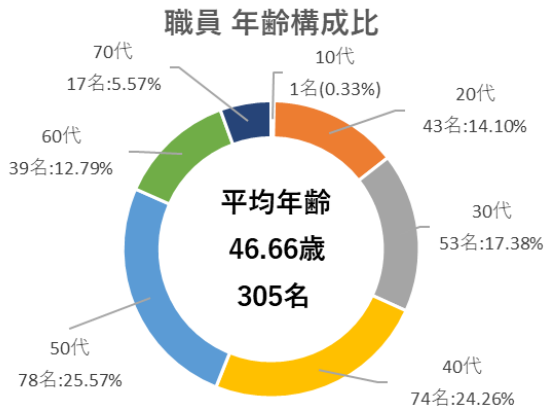
一方、経営面においては、新型コロナウイルス感染者発生やクラスター発生による経営への影響は甚大なものとなり、さらに急激な物価高騰により、非常に厳しい決算を迎えることとなりました。早期に、経営状況の悪化は予想されましたが、このような時期だからこそ、継続した職員待遇の向上と新型コロナウイルス感染者等に対応した職員への手当の支給、生活保障に取り組みました。また、法人設立50周年記念事業では、人件費積立金等を財源として、職員への特別賞与の支給とご利用者への50周年記念御前（食事）の提供、50周年記念「かけはし」を発行しました。コロナ禍ということもあり、ご利用者と職員に焦点を当てたシンプルな事業として、50周年を迎えることができました。

2023年度は、新型コロナウイルスの対応、考え方が大きく変化することとなります。社会福祉事業を運営する法人として、ご利用者の命を守る感染対策を基本としつつ、アフターコロナ「普通の生活を取り戻す」局面となります。また、非営利法人である社会福祉法人とは言え、一企業として安定経営のための各施設、事業所の運営と物価高騰への経営施策を推進していかなければなりません。当法人が運営する社会福祉事業は、ご利用者である高齢者、障がいをお持ちの方の暮らしと地域社会を支える事業です。災害の最中も、困難な事業環境にあったとしても、私たちはお一人おひとりへの支援を続け、行動し続けなければならないと考えています。ご利用者も、職員も、その人らしく豊かな生活を送れるように、着実な法人経営を進めて参ります。

引き続き、皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

感謝 法人役員一同

2. 法人の基本データ（職員について）



【平均勤続年数】 8年6ヵ月（介護系職員:8年2ヵ月）

【障がい者の雇用率】 3.43 %（9名雇用）（法定雇用率2.30%）

3. 法人運営の成果と課題 ～ 5つの視点に基づき ～

(1) 利用者視点

2022年度は、ウィズコロナを1つのテーマとして、法人各施設・事業所の運営を進めていくことを事業計画に掲げました。各施設ご利用者には、大切なご家族との時間を過ごしていただくことや外出等の楽しみのある生活を過ごしていただくことに勇気を持って取り組みました。また、通所・訪問介護事業所は、地域で暮らす高齢者や障がいをお持ちの方の生活を直接支援する重要な役割を担う事業所であることから、通所事業所では新型コロナウイルスの感染者が発生する都度、可能な限り事業規模を縮小しながらも運営を継続し、訪問介護事業所では、地域の通所事業所の休止や濃厚接触者となり自宅で過ごさざるを得ないご利用者の生活を支援しました。相談関係事業所は、地域の各種事業所等で感染者が発生する度に、サービスの調整や感染者となったご利用者の入院調整等に奔走しました。当法人が運営する各施設、事業所の職員の努力により、ウィズコロナでの福祉サービスの提供とご利用者への支援を継続することができたと評価しています。

- ◆ 和幸園では「自立支援介護」を実践し「日中おむつゼロ」を継続しました。
- ◆ 新型コロナウイルスの感染対策の徹底を図るとともに、各施設ではご家族との面会及び外出を実施しました。
- ◆ 医療法人溪仁会定山溪病院配置医との連携により、ご利用者の健康管理とターミナルケアを実践しました。また、新型コロナウイルスワクチンの施設内接種及び新型コロナウイルスに感染したご利用者への治療薬の早期提供が実現できました。
- ◆ 通所事業部、地域事業部ともに、ご利用者が住み慣れたご自宅での生活を継続できるように、ウィズコロナでの通所・訪問介護、相談支援、介護予防事業を展開しました。

【課題】

- ◆ ご利用者の生活をより活発なものへと移行するとともに、新型コロナウイルス感染者発生時には迅速な対応が図れるように協力医療機関との連携体制の構築に取り組みます。
- ◆ 各施設、事業所の特色や付加価値を明確にし、他事業所との差別化に取り組みます。
- ◆ 当法人が、高齢者及び障がいをお持ちの方にとっての地域の福祉拠点となることを目指し、各施設、事業所の運営に取り組みます。
- ◆ ご利用者、ご家族とのコミュニケーションを深め、ミスコミュニケーションによるトラブル等が発生しないように、丁寧な説明と確認、情報の共有を徹底します。

(2) 財務視点

各施設での度重なるクラスターの発生により、施設利用者の入院、退去等が例年の2倍となるとともに、各医療機関、福祉施設での感染者が急増している中で、新規利用者の受け入れがスムーズに進まないことで入居ベッドの稼働率を大きく下げる結果となりました。また、各施設に併設する短期入所事業所及び通所事業所は、施設での感染者発生都度、事業の休止や縮小した運営を余儀なくされました。和幸園デイサービスセンター及び和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森では、ご利用者・職員を含めた事業所内クラスターが発生し、和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森は事業を7日間休止することとなりました。法人内各施設、事業所における新型コロナウイルス関連による事業活動収入の減収は、経営の基盤を大きく揺るがすものとなりました。支出についても、職員への待遇向上や新型コロナウイルスへの対応に係る特別手当と生活の保障、感染対策に係る各種経費の増大、さらに急激な物価高騰により、

予算を超過する結果となりました。

一方、国や地方公共団体等が実施する各種補助事業（新型コロナウイルス対策含む）を経営改善施策の1つとして、詳細な各種経費に対する補助金申請を行い、法人全体で48,000千円を超える補助金の交付を受けることができました。

その結果、修繕費積立資産5,000千円を積立てて、当期資金収支差額38,002千円と法人全体での黒字決算を維持することができ、新型コロナウイルス禍及び急激な物価高騰等の厳しい経営環境下において、堅調な経営を継続することができたと考えています。

- ◆ 相談支援事業所グリーンハイムは、札幌市障がい者相談支援事業実施業務（南区）を受託したことと1年を通じて安定した利用者の確保と支出の管理ができたことで、当期資金収支差額合計で7,000千円を超える黒字決算となりました。
- ◆ 新型コロナウイルス対応に係る経費、介護負担軽減を目的としたICT・介護ロボットの導入等の設備投資、急激な物価高騰等に対する各種補助事業への申請を行い、48,000千円を超える補助金の交付を受けることができました。

【課題】

- ◆ 各施設、事業所の経営実績としては、新型コロナウイルスの影響もあり、低下傾向となっています。ウィズコロナ、アフターコロナを視野に、ご利用者が以前の生活を取り戻せるようなケアの方法を検討し、実践します。
- ◆ 通所事業所においては、ウィズコロナでの事業運営を展開するとともに、各事業所の特色、強み、付加価値の確立と情報発信力の向上に取り組みます。
- ◆ 訪問介護事業所においては、ホームヘルパーの確保が困難な状況となっていることと介護報酬の減額等により、経営基盤が脆弱となっています。職員体制を縮小し、持続可能な経営スタイルの検討をします。

(3) 人材視点（採用力と定着力の強化）

介護人材の不足により、業界全体が職員採用に苦慮している状況ではありますが、1年を通じて47名（前年度38名）の職員を採用することができました。一方で、1年を通じて退職者が53名（前年度43名）となり、離職率が17.43%と非常に高い数値となりました。退職理由を分析すると、定年退職者、定年後の再雇用職員の退職の他、転居やご家族の介護・看護、職員自身の疾病等を理由とする退職者が15名と退職者全体の28.30%を占めることとなり、職場としてのフォローが困難な退職ケースが多い年であったと評価しています。しかし、当法人における採用力の強化と職員の離職防止は大きな課題であると認識し、短期的な施策の他に、中・長期的に新たな施策の検討と実践が必要と考えています。

- ◆ 処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算を活用した賃金改善を継続して実施しました。また、2023年度より、正職員の年間公休数を118日（5日増）に増やす規程改正を行いました。
- ◆ 職員育成、資格取得支援のための施策として、法人全体研修、新人職員向け研修会、事業所内研修等を実施するとともに、職員個々のキャリアアップのための実務者研修の受講支援、介護福祉士受験対策学習会を開催し、法人全体で9名の国家資格合格者を輩出しました。

- ◆ 特別養護老人ホーム和幸園では、補助金を活用した ICT システム「ケアパレット（タブレット端末）」の導入による介護負担軽減のための設備投資を実施しました。その他、介護負担軽減のための見守りセンサーやマットレス、自動体交マットレス等を各施設で導入しました。
- ◆ 新型コロナウイルス感染者等となったご利用者へのケアに携わる職員への特別危険手当の支給、住居の確保等、新型コロナウイルス対策事業として法人独自の施策を実施しました。

【課題】

- ◆ 専門職研修、人材育成研修、キャリアアップ研修を計画的に実施するとともに、資格取得支援制度の拡充に取り組み、職員が資格を取得しやすい環境を整備します。
- ◆ 定着率の向上を目指し、各施設、事業所、職種における離職課題の明確化と人事評価システムの全面見直し、職員待遇と職場環境の改善に取り組みます。
- ◆ 介護負担軽減のための ICT システムと介護ロボットの導入に取り組み、さらなる職場環境の改善に取り組みます。
- ◆ 採用活動の活性化を図るとともに法人の風土や方針を理解した職員の採用を促進するため、SNS や法人ホームページ、indeed 等の大手求人サイト等を活用し、新しいスタイルでの求人活動に取り組みます。

(4) 地域視点

当法人では、2007年より約15年に亘り、法人の資源（人材・資金・備品）を活用した地域貢献活動として、地域の高齢者、障がいをお持ちの方々の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の高齢者の介護をしているご家族（地域の方）を対象とした「認知症状改善塾」、イオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に相談できる場所づくりとした「介護なんでも相談会」（1回/月）の開催を中心に各種地域貢献活動を実践してきましたが、2022年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、全ての地域貢献活動を自粛しました。2023年度については、新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、全ての地域貢献活動の再開を目指します。

(5) ガバナンス視点

社会福祉法等の関係法令に基づき、理事会・評議員会（決議省略）を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の決議を行いました。また、会計、サービス内容の両面に亘る経営と運営の適正化に向けた監事監査を定期的に行いました。会計については、顧問会計事務所による定期監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理に努めました。

さらに、情報公開（定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等、介護職員処遇改善計画等）、アカウントビリティ（説明責任）の推進のため、内部ではインフォメーション、法人内ネットワーク等を活用し、職員との情報共有を図りました。外部への情報発信については、より広く効果的な情報発信を目指し、ホームページの全面リニューアルと Instagram を新たに開始し、SNS 活用の幅を拡大しました。また、広報誌「かけはし」については、定期発行の他に、法人設立50周年記念特別号を発行しました。内・外部ともに適切な情報発信を図り、より透明性の高い法人経営に努めました。

法 人 事 務 局

1. 事業報告総括（事務局、経理、総務、管理）

法人事務局では、理事会、評議員会において、予算、事業計画、決算、事業報告、規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の決議を行うための運営を適正に実施しました。また、法人の健全経営、透明性の高い運営に向けた施策の実施及び円滑な法人運営のための環境整備に取り組みました。

経理部門については、顧問会計事務所の定期的な監査を受け、助言を得ながら正確、適正な会計処理に努めました。また、総務部門については、顧問社会保険労務士の助言、指導を受け、法・制度に対応した適正な総務業務の遂行と役職者の労務管理支援として各種情報の提供に努めました。また、各種助成金の申請や届出業務、ご利用者の預り金管理業務を適正に実施しました。管理部門については、防災関係、施設設備、車輛関係に係る維持管理業務を適正に実施しました。

2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、事務部門主催の喫茶は中止となりましたが、施設の各種行事への参画を再開し、ご利用者への直接支援に取り組みました。また、新型コロナウイルス感染対策として施設内共有部分の定時の消毒・換気や注意喚起の館内放送の実施、施設内でのクラスター発生時には、現場職員の生活を支援する後方支援の役割を担いました。

経営面においては、国、地方公共団体等が実施する各種補助金（新型コロナウイルス対策含む）を活用し、法人全体で45,000千円を超える補助金の交付を受け、ICTシステムや介護ロボットの導入経費、感染対策備品の購入経費、クラスター発生時に職員へ支給する危険手当や住宅貸与等の経費を軽減するとともに、クラスター等による事業活動収入の大幅な減収による法人経営への影響を軽減することができました。

2. 法人運営状況

（1）役員体制

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長	太田 三夫	学識経験者：太田・遠藤法律事務所 弁護士	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
常務理事	平松 朋紀	職員：総合施設長・法人事務局長	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
理 事	大沼 百合子	学識経験者：当法人元常務理事	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
〃	石川 秀也	学識経験者：北海道医療大学 非常勤講師	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
〃	檜 森 道子	学識経験者：当法人元地域事業部部長	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
〃	星野 八重子	職員：和幸福施設長	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
監 事	土肥 富彦	学識経験者：他社会福祉法人施設長経験者	2021. 6. 15 ～ 2023. 6
〃	石川 由男	財務学識経験者：春野会計事務所 代表税理士	2021. 6. 15 ～ 2023. 6

役職	氏名	職業	任期
評議員	浅香博文	学識経験者：社団法人会長（福祉関係）	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	岩本龍明	地域の代表：会社経営者	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	大磯英太郎	地域の代表：会社経営者・石山商店街振興組合理事長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	塩田恒雄	地域の代表：地区社会福祉協議会会長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	瀧川尚規	学識経験者：他社会福祉法人施設長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	千葉徹	学識経験者：他社会福祉法人理事長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	福士昭夫	地域の代表：石山地区町内会連合会会長 他	2021. 6. 15 ～ 2025. 6
〃	藤沢美穂子	地域の代表：札幌市赤十字奉仕団石山分団長	2021. 6. 15 ～ 2025. 6

(2) 理事会開催状況

第1回 2022年5月27日（金）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）
土肥富彦、石川由男（監事2名：確認書）

議案内容 2021年度 事業報告（案）について
2021年度 決算報告（案）について
監事監査（2021年度全般）結果について
定時評議員会の開催について

第2回 2022年10月1日（土）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）
土肥富彦、石川由男（監事2名：確認書）

議案内容 各種規程の改正について

第3回 2022年11月9日（水）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）
土肥富彦、石川由男（監事2名：確認書）

議案内容 人件費積立資産の取り崩しについて
2022年度 第1次収支補正予算（案）について

第4回 2022年12月23日（金）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）
土肥富彦、石川由男（監事2名：確認書）

議案内容 諸規程の改正について
厨房業務委託契約の更新について

第5回 2023年3月23日（木）決議省略：書面

太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子（理事6名：同意書）
土肥富彦、石川由男（監事2名：確認書）

議案内容 2023年度 事業計画（案）について
2023年度 収支予算（案）について
各種規程の改正について

（各理事会において、書面にて理事長及び常務理事の職務執行状況（経営・運営状況）について報告）

(3) 評議員会開催状況

第1回 2022年6月15日(水) 決議省略:書面

浅香博文、岩本龍明、大磯英太郎、塩田恒雄、瀧川尚規、千葉徹、福士昭夫、藤沢美穂子
(評議員8名:同意書)

議案内容 2021年度 事業報告(案)について
2021年度 決算報告(案)について
監事監査(2021年度全般)結果について
定款の改正について

(評議員会において、書面にて理事長及び常務理事の職務執行状況(経営・運営状況)について報告)

(4) 監事監査実施状況

第1回 2022年 5月20日(決算) 第3回 2022年12月16日(定期)

第2回 2022年 9月26日(定期) 第4回 2023年 3月17日(定期)

(5) 各種指導監査

- ① 2022年度 社会福祉法人及び社会福祉施設の指導監査:札幌市 文書指導事項なし
- ② 2022年度 特定(多数)給食施設指導監査:札幌市 文書指導事項なし
- ③ 2022年度 企業主導型保育事業指導監査:(独)児童育成協会 文書指導事項なし

(6) 各種会議・委員会

苦情解決・虐待第三者委員会 2022年 9月 2日 第三者委員会各委員へ苦情等の報告

(7) 法人全体研修(ZOOM 併用のハイブリッド研修)

※他法人職員公開研修

NO	研修名	開催状況
1	身体拘束をなくすために わたしたちができること 講師 田中かおり 氏(公益財団法人北海道看護協会)	2022年8月29日 18:10~19:30 参加者 52名
2	健康に働くためのストレスの基礎知識 講師 三浦清香 氏(札幌CBT&EAPセンター)	2022年10月27日 18:10~19:30 参加者 54名
3	利用者支援における接遇 講師 池田ひろみ 氏(合同会社うえるかむ)	2022年12月16日 18:10~19:30 参加者 45名
4	虐待を絶対にしない・させない覚悟 講師 池田ひろみ 氏(合同会社うえるかむ)	2023年 2月22日 18:10~19:30 参加者 59名
5	安全運転のポイント 冬道の安全運転5則 講師 安全運転管理委員会(情報提供)	2022年12月14日 法人内での新型コロナウイルス発生 により全職員へインフォメーション
6	介護福祉士受験対策講座 講師 法人職員	2022年8月~2023年1月 参加者 2名(国家試験合格)
7	介護福祉士国家試験直前対策講座	法人内での新型コロナウイルス発生に より中止

(8) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	
2022年 6月22日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	グリーンハイムより出火想定訓練(和幸園合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 グリーンハイム本館3階居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2022年 6月22日	【土砂災害時避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・外周の状態確認	集中豪雨発生による危険個所の探索及びBCP発動の想定訓練(和幸園) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2022年 7月13日	【火災避難訓練】 初期消火訓練	火災発生想定での消火器使用訓練 (グリーンハイム玄関前)
2022年10月21日	【火災避難訓練】 初期消火・通報・ご利用者の避難誘導訓練	和幸園より出火想定訓練(グリーンハイム合同) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 和幸園(4階)4条4丁目居室 ②他階及びデイサービスでは日中想定訓練 (午前11時00分)
2022年10月21日	【土砂災害時避難訓練】 ご利用者の避難訓練及び建物・敷地内の危険箇所の有無確認	集中豪雨発生による危険箇所の探索及びBCP発動の想定訓練(グリーンハイム) ①集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2022年12月20日	【緊急連絡・参集訓練】 緊急連絡網による緊急連絡	地震発生により、ブラックアウトとなったことを想定した緊急連絡訓練 (午後6時30分から連絡開始)
2023年 2月 8日	【地震災害時避難訓練】 地震による災害時緊急避難訓練(対策本部機能訓練)	地震発生による危険個所の探索及び発電機稼働訓練等 ①地震発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
新型コロナウイルス感染拡大のため中止	【他施設との共同避難訓練】 地震による災害時緊急避難訓練	震度6の地震発生による他施設からの避難者受入れ訓練(または他施設ご利用者受入れ訓練)

(9) ご利用者預り金管理

区分	預り人数	預り金残高(2023.3.31)
グリーンハイム	75名	179,399,356円
和幸園	1名	89,943円

(10) 地域貢献活動

石山8区町内会ゴミ拾いのみ参加しましたが、下記の定例地域貢献活動は新型コロナウイルス感染対策のため全て中止としました。来年度は、全ての地域貢献活動を再開する方向で検討していきます。

- ・介護なんでも相談会（イオン藻岩店様店内特設ブースにて相談会を開催）
- ・認知症状改善塾
- ・いしやま朝市送迎バス
- ・地域福祉活動（町内会ゴミ拾い等）

(11) 広報活動（広報委員会）

- ・広報誌「かけはし」の作成（年2回発行）
2022年6月発行（55号）、2022年12月発行（法人設立50周年記念特別号）
- ・ホームページの全面リニューアルと運営
- ・Facebook 及び Instagram の運営

(12) 業務委託状況

業務内容	業務委託先
施設厨房業務	(株) エムズフード
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SEC エレベーター (株) 三菱電機ビルテクノサービス (株)
専用水道水質検査業務	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック (株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) グッドウイング
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
税務・会計顧問	平田清悦税理士事務所（旧税理士法人幌西会計）
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所テラス
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌 CBT&EAP センター

(13) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実施内容		
年 間	電気設備点検及び屋上非常用発電機 専用水道水質検査	北海道電気保安協会 (財) (財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
4月	貯水槽清掃	(株) 小川技研
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検	正栄機工 (株) (株) 小川技研
8月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
9月	消防用設備保守点検及び屋上非常用発電機	(株) ネットワークイン
10月	厨房線りストラップ清掃	(株) 小川技研
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	正栄機工 (株)
12月	エコキュート点検整備	(株) 前川製作所
1月	汚水槽清掃点検	(株) 小川技研
3月	2号ボイラー点検整備	(株) NTEC サービス
年4回程度	暖房用非常用発電機 (非常用発電機試運転)	法人担当職員

② 車輛

車輛台数 30台 (内リース車両 22台)

2023. 3. 31時点

所 属	台 数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	6台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所	3台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	4台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
相談支援事業所グリーンハイム	1台
計	30台

各施設及び各職域の事業報告

障がい者支援施設グリーンハイム ～ since 1973 ～

1. 事業報告総括

当施設ご利用者、ご家族、そして職員も含めたご利用者支援に関わる全ての方々が、お互いの主体性、プライド、個性を尊重し合えることを2022年度の運営方針としました。また、障がいをお持ちの方と福祉・介護の分野で仕事をしたいと思っている方の双方に選ばれる施設創りに取り組みました。

具体的な取り組み例として、ご利用者支援の根幹となる常設委員会である接遇向上委員会、虐待防止・身体拘束等適正化委員会、リスクマネジメント委員会の活動性と実効性を高めるため、委員の任期を2年間に変更し、ディスカッション形式による運営を行いました。これによって、委員としての責任感、主体性を持ち、周知活動を行うこと及び、各グループにおいて具体的な実践を定着できることを目指しました。また、委員自身が各委員会の目的、目標の理解をさらに深め、委員会での学びをグループに持ち帰り、職員一人ひとりの実践に結び付けていけるような取り組みを行いました。

新人職員の育成については、リーダー職員会議において、実践に直結する介護技術研修となるように新人職員育成プログラムの再検討を行い、より充実した新人職員の育成に取り組みました。また、プリセプター制度の効果を高めるため、プリセプターとなる育成担当職員への研修を実施し、新人職員の育成方法を基礎から学び直す機会を設けました。1年を通じて、職員不足に悩むこととなりましたが、各現場において丁寧に新人職員を育成した結果、施設としての支援力の向上を実感できる1年であったと評価しています。

施設の経営安定化については、新型コロナウイルス感染症の影響により、新規利用者の施設入居の調整に時間がかかること、また医療機関への入院者の増加やショートステイの事業休止等、予想に反した事態が幾度も発生しました。そのような中で、多方面への情報発信活動と、動画等による施設見学対応等、施設利用に関する相談に対し、柔軟な対応を行いました。今後も、施設利用希望者の確保に向けた情報発信活動を行うとともに、これまで実践してきた施設入居稼働率及びショートステイ稼働率管理の徹底と、支出に係る予算管理の徹底を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症に対する感染対策により、ご利用者には制限のある生活の継続をお願いすることとなりました。ご利用者と職員が一丸となって感染対策の徹底に取り組みましたが、8月、12月、1月にクラスターが発生し、施設内でのゾーニング（隔離対応）を余儀なくされました。そのことにより、ご利用者・ご家族には、多大なご心配をお掛けすることとなりましたが、一方で激励のお言葉を多数いただいたことは、感染症の恐怖と隣り合わせの中、前を向いてご利用者の支援を続ける職員の心の支えとなりました。このような状況ですが、法人の事業方針であるウィズコロナをテーマに、社会情勢や法人内感染状況に合わせ、制限をお願いしていた面会及び外出を再開しました。2023年5月以降、新型コロナウイルスを季節性インフルエンザ等と同等の5類に移行することが決定しましたが、新型コロナウイルスの脅威がなくなる訳ではありません。ご利用者、職員ともに体調管理を徹底し、感染予防及び感染の拡大防止に努めながら、ウィズコロナをテーマにご利用者の皆様にコロナ前の普通の生活を過ごしていただけるように努めていきます。

2023年度に向けて、役職者と現場職員が向き合うことができる体制を構築するとともに、ご利用者が安

心して支援を受けることができ、また職員が安心して働くことができるための施設経営・運営を目指していきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・2017年度より継続的に取り組んでいる接遇については、委員会活動が定着し、職員一人ひとりが、どのような姿勢でご利用者と接すべきなのか、各グループや職域毎に年間の接遇目標(中期目標)を設定し、さらに目標達成のための短期目標を設定し、実践した取り組みの評価を重ねながら、接遇向上の意識醸成に繋がられました。
- ・虐待の防止については、虐待防止委員会を中心に、前年度の虐待防止チェックリストの分析結果に基づき、虐待防止に関わる知識の情報発信や研修を実施しました。
- ・身体拘束の適正化については、虐待防止委員会内に身体拘束等適正化委員会を設置し、策定した身体拘束等適正化指針に基づいた取り組みを行いました。また、身体拘束適正化をテーマとした研修会を開催し、ご利用者の心身の状態を適切にアセスメントし、環境整備やケアの中での工夫について学び、実践に繋がりました。
- ・新型コロナウイルス感染対策により、レクリエーション活動はグループ単位での実施となりましたが、zoom等を活用し、施設全体で楽しんでいただけるような行事を企画、実施することができました。また、インターネットツールを活用し、音楽や映画等をいつでも鑑賞いただけるような環境整備を行いました。また、ウィズコロナをテーマに、ご利用者が希望される外出支援を再開しました。
- ・ご家族等の面会については、1階に面会スペースを設けて実施しました。2023年度は、居室での面会や面会時間の拡大等、感染症法上の類型変更や社会情勢を踏まえながら実施していきます。
- ・2022年度は、1名のご利用者に対し看取り介護を実践し、グリーンハイムで最期を迎えられました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、ご家族との面会等に制約がある状況下ではありましたが、多職種が連携し、ご本人、ご家族に寄り添いながら支援を実践することができました。

(2) 財務視点

2022年度は、施設入居稼働率97.12%、ショートステイ稼働率116.45%という結果になりました。施設内における新型コロナウイルス感染者の発生により、グループ閉鎖、ショートステイ事業の休止等、実績低下を免れない状況がありましたが、介護職員、看護師を中心として適切な感染拡大防止策を講じることで、早期に事業を再開することができました。施設入居単独では実績目標に届きませんでしたが、空床ベッド等でのショートステイご利用者の受け入れにより、総合的な目標実績を達成することができました。また、男性、女性ともに入居希望者の確保が急務となっているため、引き続き関係機関への周知活動を継続していく必要があります。ショートステイご利用者についても、新規ご利用者の確保に向けて取り組みます。

2023年度は、施設入居の希望者、ショートステイのご利用者確保に向けて、相談支援事業所や医療機関等の関係機関への周知活動を継続していく必要があることから、役職者・相談員での実績管理会議を新設し、課題解決に向けて取り組んでいきます。各種加算については、算定要件を確認しながら、書面等の整備を含め、適正な運営を継続します。

(3) 人材視点

2022年度は、昨年度に続き、職員の休職や退職が相次ぎ、安定した職員体制の確保が、大きな課題となりました。職員採用を進めるとともに、採用した職員の育成を適切に行うことで、安定した施設運営に取り組みます。有給休暇の取得や職員間のコミュニケーション、専門知識・技術の習得を進めながら、働きやすい職場環境整備を進めていきます。

(4) 地域貢献視点

施設入居、ショートステイ事業、入浴サービス事業を継続するとともに、主たる介護者の入院等、緊急性が高いケースの受け入れを行う等、専門職としての知識、技術を発揮し、地域における社会資源としての役割を果たしました。引き続き、地域住民が安心して利用できる社会資源としてサービス提供を継続するとともに、虐待による緊急一時保護等、緊急性の高いケースにも迅速に対応していきます。

(5) ガバナンス視点

施設サービス提供に係る契約書類、実績記録、個別支援計画をはじめとする各種記録の同意、日々の業務やご利用者の経過等の記録等整備に努めました。引き続き、書類の整備や適切な記録を行い、ご利用者・ご家族への記録の開示、行政や関係機関からの記録、書類の照会や実地指導等に対応できる体制構築に向けて取り組みます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況（定員／入居100名、短期4名）

2023年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1名	1名	社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士 サービス管理責任者兼務
サービス管理責任者	2名	2名	社会福祉士2名／精神保健福祉士1名 管理者兼務1名
生活支援員（相談）	57.2名 (常勤換算)	6名	相談員 常勤3名：社会福祉士3名／精神保健福祉士1名 相談員補助 非常勤3名
生活支援員（介護）		56名	常勤48名、非常勤8名：介護福祉士40名／精神保健福祉士1名、社会福祉士1名
看護職員		12名	併設施設兼務10名、夜勤専従2名 (常勤換算 6.1名 うち生活介護3.6名)
機能訓練指導員		1名	理学療法士
医師	1名	2名	定山溪病院 配置医（週1回往診）
管理栄養士	1名	1名	

(2) 職員配置比率

職 種	常勤換算	算出基準	配置比率
生活支援員（相談）	4.5名	定員 104名/65.9名	1.57名
生活支援員（介護）	54.3名		
看護職員	6.1名		
理学療法士	1.0名		
計	65.9名		

(3) 職員研修実施状況

開催日	研修名	講 師	参加職種
随時	プリセプター研修	介護係長	介護員
随時	障がいの理解	施設長	介護員
随時	排泄委員会 オンライン研修	リフレオムツサポーター	排泄委員
随時	介護技術研修（全5回）	リーダー職	新人介護員
随時	摂食・嚥下について	介護係長	新人介護員
随時	車椅子について	理学療法士	新人介護員
随時	口腔ケアについて	歯科衛生士	新人介護員
随時	排泄について オンライン研修	リフレオムツサポーター	新人介護員
毎月	緊急時対応訓練（夜間・窒息等）	リスクマネジメント委員	毎月グループ持ち回り

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	2022. 4. 1	2022. 4. 1 ~ 2023. 3. 31		2023. 3. 31
	在籍者	入居者	退居者	在籍者
男性	53	5	6	52
女性	48	4	4	48
計	101	9	10	100

② 退居理由

区 分	男性	女性	計
ご逝去	3	1	4
他の施設・病院	3	3	6
家庭復帰（地域移行）	0	0	0
計	6	4	10

③ 月別利用稼働率（定員／入居100人、短期4人）

	入居			ショートステイ		
	2022年度	2021年度	2020年度	2022年度	2021年度	2020年度
4月	97.17%	97.47%	98.20%	121.67%	148.33%	106.67%
5月	97.48%	97.65%	98.23%	113.71%	66.13%	130.65%
6月	97.73%	97.93%	99.87%	118.33%	56.67%	130.00%
7月	96.23%	97.87%	98.16%	114.52%	131.45%	128.23%
8月	94.68%	97.58%	99.06%	115.32%	136.29%	127.42%
9月	98.90%	98.67%	97.27%	124.17%	131.67%	136.67%
10月	97.81%	95.68%	97.65%	120.97%	151.61%	148.39%
11月	98.37%	96.53%	96.07%	107.50%	130.83%	107.50%
12月	97.74%	97.29%	98.55%	79.84%	117.74%	140.32%
1月	97.23%	99.32%	97.84%	125.00%	111.29%	156.45%
2月	96.50%	99.32%	98.18%	125.00%	115.18%	153.57%
3月	95.71%	98.48%	97.52%	131.45%	97.58%	160.48%
計	97.12%	97.81%	98.05%	116.45%	116.23%	135.52%

④ 年齢別状況

	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	計
男性	0	1	4	13	14	5	15	0	52
女性	0	1	5	9	6	9	13	5	48
計	0	2	9	22	20	14	28	5	100

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男性	5	8	8	10	12	3	0	6	52
女性	2	7	5	9	8	2	2	13	48
計	7	15	13	19	20	5	2	19	100

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	3	11	13	25	52
女性	1	5	15	27	48
計	4	16	28	52	100

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
男性	9	10	9	9	10	9	9	9	6	8	8	8	104	115
女性	9	6	9	8	7	8	7	9	8	8	10	9	98	89
計	18	16	18	17	17	17	16	18	14	16	18	17	202	204
利用日数	147	150	145	150	146	149	150	133	101	155	144	163	1,733	1,708

実利用人数：22名(2021年度 26名)

⑧ 訪問（面会）の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
延べ人数	46	38	54	40	31	35	39	35	28	26	27	43	442	89
実ご利用者数	14	22	26	20	14	21	19	16	15	13	15	22	217	76

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
男性	0	0	9	8	1	0	11	6	1	1	2	8	47	6
女性	0	0	9	4	1	0	17	5	0	2	4	12	54	8
計	0	0	18	12	2	0	28	11	1	3	6	20	101	14

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
外泊延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外泊延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
件数	56	56	56	49	36	62	70	59	32	63	52	57	648	542
実人数	35	39	40	39	30	48	47	38	23	40	35	36	450	367

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2022	2021
入院者	5	7	13	11	13	9	9	6	6	9	7	7	102	83
延日数	97	122	151	198	256	122	133	109	132	130	133	133	1,716	1,286

⑬ 事故報告件数

	事故件数		施設外医療機関対応	
	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度
転倒・転落	55	37	9	6
服薬	39	43	0	0
異食	0	0	0	0
介護	8	8	0	1
誤嚥	2	2	0	1
備品破損・紛失	3	5	0	0
私物破損・紛失	23	11	0	0
その他	28	22	2	2
計	158	128	11	10

	2022年度	2021年度
ヒヤリハット件数	701	1,349

⑭ 苦情受付件数

	件数
食事に関すること	0
設備に関すること	0
行事・活動に関すること	0
職員に関すること	1
ご利用者に関すること	0
その他	0
計	1

(5) 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
ご当地フェア	4月日、5月日	エムズフード主催 全国ご当地メニュー
天ぷらの日	7月8日	行事食として天ぷら等の食事を提供
焼肉昼食会	6月10日、13日、14日	屋外でジンギスカンを炭火で調理し、提供
屋台レク	8月29日、30日、31日	焼き鳥や焼きそばなどを炭火で調理し、各グループに提供
敬老の集い	9月16日	65歳以上の方々を対象にお祝い ご利用者全員にお祝いの食事を提供
蕎麦の日	10月19日	グループごとにそば等の食事を提供
寿司の日	11月11日	エムズフード主催 寿司の提供
法人設立50周年記念	12月14日	お祝いの御膳を提供
クリスマス忘年会	12月23日	会食と演芸やゲーム(オンライン)を楽しむ
餅つき	12月27日	餅つきで季節感や年中行事を体感する
新春ゲーム大会	1月1日	グループごとに新春祝いの催し
節分	2月3日	ご利用者による豆まき
鍋の日	2月3日、6日、7日 3月3日、6日、7日	寄せ鍋、すき焼き等の食事を提供

特別養護老人ホーム和幸園 ～ since 1975 ～

1. 事業報告総括

ご利用者が、その人らしい生活を主体的に過ごせるように、ご利用者お一人おひとりを専門的に介護するための視点として、「水分・常食・運動・排泄」の4つの基本ケアを中心とする自立支援介護に取り組みました。入居後はおむつを使用せずにトイレでの排泄に移行し、基本ケアの実践によって顕著にお元気になられる方もみられました。

一方で、2022年度も継続して、新型コロナウイルス感染症に翻弄される1年となりました。クラスター発生時には、感染者となったご利用者のうち、保健所の判断により入院治療を必要とされたご利用者以外は、施設内での療養となり、感染拡大を食い止めるには非常に厳しい環境となり、瞬く間に大規模クラスターとなってしまいました。

施設内での感染対策として、職員の健康管理とご家族等での体調不良時には勤務変更を行う等の早期対応を徹底し施設内での感染者発生の予防に努めました。そのことにより、急な勤務変更や超過勤務、少ない人数での対応を余儀なくされる日々となり、職員への負担は大きなものとなりました。しかし、職員はそのような中でも前を向きご利用者のケアを継続してくれました。また、新型コロナウイルスの感染によりADLが低下したご利用者に対し、元気になっていただくために基本ケアの実践を継続してくれました。こうした職員の奮闘に感謝しています。

2022年度の施設入居稼働率は、過去最低の結果となり、経営に甚大な影響を与えました。要因として、新型コロナウイルスに関連する入院や退居が相次いだこと、またクラスター発生により、新規利用者の入居調整や退院者の受け入れができなかったことが挙げられます。退去者数も、大規模クラスターが発生した上半期だけで30名を超え、年間で37名と過去最高になりました。しかし、一方で、1年を通じて40名の新規利用者の入居を進め、年度末には施設入居ベッドを満床にし、ショートステイではアクティビティに富んだケアを実践した効果により稼働率を挽回し、下半期の稼働率を大きく上昇させました。こうした職員の日々の努力と関係機関の皆様のご協力により、幸先の良い2023年度のスタートに繋げることができたと考えています。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 自立支援介護

- ・自立支援介護WEB研修の参加を継続し、知識の習得と実践の評価をすることができました。
- ・理事を講師に招き、自立支援会議での講義、事例への助言・指導を受けました。
- ・フロア会議にて個別ケア会議を実施し、月毎の水分・下剤や浣腸・食事形態・歩行量等を評価し、PDCAサイクル（毎月）による支援を実践しました。

② ターミナルケア

- ・新型コロナウイルス感染対策での面会自粛期間であっても、PPE（感染防護具着用）での居室面会を継続した他、ご利用者の体調に合わせて1階ロビーでの面会やLINEによるリモート面会を実施しました。
- ・電話での近況報告の他に、LINEの活用やご利用者の写真を郵送する等、近況報告をこまめに実施しました。

- ・本人やご家族の意向に沿った最期の時をお過ごしいただけるよう多職種連携による支援を実施し、年間を通じて10名のご利用者を施設内でお見送りしました。

③ 褥瘡の予防

褥瘡予防委員会を2ヵ月に1度開催し、褥瘡発生状況の情報共有と、PT・OTによる褥瘡予防のためのポジショニングやマットレスの勉強会を実施したものの、年間を通じて24件の褥瘡が発生しました（3ヶ月以内に治癒した方が11名、治癒と発生を繰り返す方が9名、褥瘡による入院（入居前より褥瘡あり）1名、他3名は退居）。要因として、新型コロナウイルス感染者発生に伴うゾーニング（隔離対応）等により、活動性が低下し褥瘡発生に至るケースやゾーニング中（隔離対応）にこまめな皮膚観察ができず褥瘡発生に至るケースが見受けられました。そこで、日々の皮膚観察の重要性を認識し、早期発見、多職種での情報共有、配置医師への報告、医療機関受診を迅速に進めています。また、褥瘡マネジメント加算を算定することで、ご利用者全員の褥瘡防止計画を作成し、個別にリスク管理を行うとともに、褥瘡が発生した方については定期的な計画更新を行い、早期治癒に努めています。

④ 介護事故の減少

介護事故の総件数は、約233件（半数は転倒・転落事故）と過去6年間で最も少ない件数となりました。誤嚥・窒息の事故は6件と昨年度より減少しましたが、重大事故であることから事故防止に向けた対応に努めています。また、服薬事故は28件と昨年度よりも10件以上減少しましたが、服薬事故は人為的なミスによる事故であり、生命の危機に繋がる可能性が高いため、服薬事故ゼロを目指し、再発防止に取り組んでいます。

⑤ 感染症予防

- ・新型コロナウイルスの感染対策を中心として、法人が定める感染対策を基本に職員の日常業務における感染予防意識の向上と感染予防の手技、ガウンテクニック等、対応方法の研修を実施しました。
- ・職員及びその家族も含めた健康観察を行い、体調不良時等には上司への連絡を徹底し、その都度出勤可否の判断をしました。新型コロナウイルス感染者の発生（疑い）時には、早期に感染者との接触状況を把握し、ゾーニング（隔離対応）対応等を実施し、感染拡大防止に努めました。
- ・新型コロナウイルス以外の感染症の発生はありませんでした。

⑥ 身体拘束廃止及び虐待防止

身体拘束廃止及び虐待防止委員会を定期的に開催し、職員への勉強会を実施しました。言葉遣いの乱れや日頃の言動等が身体拘束や虐待に繋がる可能性があるため、丁寧な言葉遣いと接遇について職員全員が指導し合えるよう取り組みました。また、ご利用者やご家族からの苦情・要望から、介護方法や接遇について、職員へ個別に面談と指導を行い、改善を図るよう努めています。

⑦ レクリエーション、クラブ活動の充実

新型コロナウイルス感染対策のため、施設全体でのレクリエーションやクラブ活動は休止し、ユニット単位での活動を中心とし、ユニット独自の新しい活動も実践できました。しかし、新型コロナウイルス感染者の発生等により、全体的に活動性の低下がみられた1年となりました。2023年度は、ご利用者が以前の生活を取り戻せるような活動性の高いレクリエーション、クラブ活動を実践していきたいと考えています。

⑧ 和幸園だより（広報誌）の発行、Facebook の更新

和幸園だよりをご家族等へ毎月送付するとともに、Facebook を随時更新しました。また、ホームページの全面リニューアルやInstagram の新規開設により、ご家族や他事業所への情報発信のツールが充実し、和幸園の取り組みとご利用者の笑顔を発信することができました。

⑨ ご家族との連携

ケアプラン更新時に、本人の様子を報告するとともにご家族の意向の聞き取りを実施しました。体調不良時や事故等が発生した際には、ご利用者の状態と今後の対応について、ご家族に対し迅速且つ丁寧な報告を心掛けました。面会については、ゾーニング時以外は1階ホールでの制限付の面会や抗原検査による陰性確認後に居室での面会を実施しました。また、ターミナル期のご利用者に対しては、通年でPPE（感染防護具着用）での居室面会を実施しました。

(2) 財務視点

年間入居稼働率については、目標稼働率が施設入居97.50%、ショートステイ90.00%に対して、施設入居は90.47%（108.56名）、ショートステイ90.42%（17.17名）となりました。施設入居は、新型コロナウイルスに関連する入院や退居が相次ぎ、またクラスター発生により新規利用者の入居調整や退院者の受け入れができないことも多くありました。退去者数は、大規模クラスターが発生した上半期だけで30名を超え、年間で37名と過去最高に達し、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることとなりました。その一方、1年を通じて40名の新規利用者の入居を進めることができ、年度末には施設入居ベッドを満床にできました。相談員を中心とする効果的な情報発信活動の成果と和幸園の知名度、そして地域から期待を寄せていただいていることを実感できました。ショートステイでは、特に上半期において稼働率が低下しました。要因として、新型コロナウイルスの感染者発生による受け入れの中断やキャンセル、利用控え等に加え、短期入居利用者の施設入居等が挙げられます。しかし、アクティビティに富んだケアの実践や緊急ケースやケース相談に対し、誠実且つ速やかに対応する姿勢が功を奏し、11月以降は実績を伸ばし、最終的には目標達成に至ることができました。

(3) 人材視点

2022年度の介護職員の退職介護員数は15名となり、前年度比でほぼ同様でした。コロナ禍による厳しい労働環境の中で、介護・福祉の分野から離れていく職員も少なくありませんでした。一方、このような状況において、定着し活躍してくれている職員も増えており、人材定着・育成の取り組みの成果が表れていると評価しています。具体的には、職員個々の状況を見ながら、リーダー・主任がこまめに声掛けや面談を行っていたこと、また、新人職員個々の状況に合わせて、育成プログラムを柔軟に変更しながら独り立ちの支援を行っていたこと等が挙げられます。その他にも、新人職員茶話会での職員同士の交流会を実施する他、役職者に対しても、リーダー茶話会、主任茶話会により日々の情報共有や意見交換ができる場を設けました。さらに、育児休暇を終えた職員が、職員専用のハピリす保育園を利用することで、スムーズな職場復帰ができました。現在、育児休暇中の職員は4名在籍し、2023年度には職場復帰できる見込みであることから、ハピリす保育園の運営も、職員の定着に効果を発揮していると考えます。

(4) 地域貢献

「認知症状改善塾」や「介護なんでも相談」等の地域貢献事業は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自粛していました。その他、地域ボランティア（日赤奉仕団石山分団）、ギター演奏ボランティア等の受け入れも休止していました。2022年度は、新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、ショートステイサービス等の事業を継続し、地域で暮らす方々への支援（緊急ケース含め）を途切れさせないことが大切であり、地域貢献に繋がるものと考えて事業運営に取り組みました。また、福祉・介護分野の人材育成の重要性から、実習生の受け入れを再開しました。なお、社会福祉法人としての低所得者への利用料減額支援については継続して実施しました。

(5) ガバナンス体制の強化

運営基準や算定している各種加算については、算定要件を請求時及び定期的に確認し、基準違反や不正となる請求がないように留意しています。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況（定員／入居120名、短期19名） 2023年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1名	1名	社会福祉士／介護福祉士／介護支援専門員
生活相談員	2名	4名	常勤4名（介護支援専門員兼務2名） 社会福祉士3名／介護福祉士3名
介護支援専門員	2名	3名	生活相談員兼務2名、機能訓練指導員兼務1名
介護職員	46.7名 (常勤換算)	89名	常勤57名、非常勤32名 ：介護福祉士51名／社会福祉士1名
看護職員	4名 (常勤換算)	11名	常勤1名、併設施設兼務10名（常勤換算4.6名）
医師	必要数	2名	定山溪病院 配置医（週1回往診）
機能訓練指導員	1名	2名	常勤2名（介護支援専門員兼務1名） 理学療法士、作業療法士
管理栄養士	1名	1名	常勤1名

(2) 職員配置比率

職種	常勤換算	算出基準	配置比率
介護職員	78.3名	定員139名/82.9名	1.68名
看護職員	4.6名		
計	82.9名		

(3) 職員研修実施状況

開催日	研修名	講師	参加職種
8月 25日	口腔ケアについて	外部講師	介護職員、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員
9月 7日	救命救急研修	看護師	
10月 12日	事故対策 ヒヤリハット事例研修	委員会内研修	
10月 19日	ターミナルケア研修	看護師	
10月 26日	食中毒・尿カテ管理	看護師	
11月 10日	感染症研修	看護師	
3月 17日	腰痛予防研修	理学療法士	介護職員
随時	介護理念について	施設長	新人介護職員
随時	認知症について	施設長	新人介護職員
随時	基本ケア・食事・排泄・移動・オンコールについて	介護主任・リーダー	新人介護職員
随時	感染症について	看護師	新人介護職員
随時	記録・ターミナルケアについて	生活係長・リーダー	新人介護職員
年12回	自立支援介護Web研修	外部講師	和幸園職員

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	新規入居者	退居者
男性	16	14
女性	24	23
計	40	37

② 退所理由

	2022年度	うちターミナル	2021年度
ご逝去	19	9	28
長期入院	16	1	7
家庭復帰	2	0	4
他施設へ入居	0	0	0
計	37	10	39

③ 月別平均利用稼働率（定員／入居120名、短期19名）

	入 居		ショートステイ	
	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度
4月	84.89%	99.06%	85.96%	92.67%
5月	85.24%	95.19%	98.64%	73.87%
6月	86.61%	96.14%	79.47%	87.83%
7月	86.94%	99.11%	77.76%	86.61%
8月	87.09%	96.80%	70.46%	77.42%
9月	92.50%	95.94%	78.90%	83.17%
10月	93.63%	95.56%	76.57%	77.10%
11月	93.03%	94.97%	93.68%	84.17%
12月	93.95%	96.13%	96.43%	83.06%
1月	92.98%	90.76%	104.24%	93.96%
2月	93.48%	94.72%	110.34%	93.03%
3月	95.30%	90.51%	112.56%	78.87%
年度平均	90.47%	95.41%	90.42%	84.31%

④ 年齢別入居者状況

	65歳未満	65～74	75～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男性	0	5	11	5	5	3	0	29
女性	0	4	24	27	25	7	3	90
計	0	9	35	32	30	10	3	119

⑤ 新規入居者の入居前状況

場所	人数
自宅	21
介護老人福祉施設	0
介護老人保健施設	2
介護療養施設	0
医療機関	16
他の福祉施設	1
計	40

⑥ 月別入院状況

入院状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2021年度
入院者数	6	3	7	9	9	8	10	10	6	9	10	14	101	113
入院延日数	102	36	78	178	210	132	173	194	105	143	211	213	1,775	1,930

⑦ 新規入居者の入居時認知症自立度状況

認知症自立度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
I	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
II	0	1	1	2	1	0	0	0	0	1	1	0	7
III	1	3	4	6	3	3	1	0	0	4	2	0	27
IV	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	4
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	4	7	9	4	3	3	0	0	5	4	0	40
Ⅲ以上	100%	75.0%	71.4%	66.6%	75.0%	100%	100%	0%	0%	80.0%	75.0%	0%	77.5%

⑧ 新規入居者の入居時要介護状況

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護3	0	2	2	4	1	2	2	0	0	0	1	0	14
介護4	1	1	1	4	2	1	1	0	0	3	2	0	16
介護5	0	1	4	1	1	0	0	0	0	2	1	0	10
計	1	4	7	9	4	3	3	0	0	5	4	0	40

⑨ 事故報告件数

	事故件数	
	2022年度	2021年度
転倒・転落	128	139
打撲	44	48
服薬	28	39
異食	0	5
誤嚥	6	7
皮膚剥離	17	13
その他（ヒヤリハット含む）	10	10
計	233	261

⑩ 苦情受付件数

苦情内容	件数
介護等に関すること	2
設備に関すること	0
職員に関すること	1
その他	2
計	5

(4) 年間行事報告

行事名	実施日	内容
お楽しみ会	6月	各ユニット実施 (13ユニット)
ジンギスカン	7月13、14、15日	ジンギスカン・ちゃんちゃん焼き
夏祭り (2条)	8月24日	和幸園中庭での夏祭り
敬老祭	9月15日、16日	祝寿対象者などへ記念品の贈呈、スライドショー、食事会等
夏祭り (1条)	8月31日	ショートステイユニットでの夏祭り
味覚祭	11月16日	石狩汁や栗ご飯を調理、提供
クリスマス会	12月20、21、22、23日	会食と催し物など披露
餅つき	12月28日	ご利用者と職員による餅つき
のど自慢大会	2022年1月 (全ユニット13回)	各ユニットでののど自慢大会
節分	2月3日	各ユニットにて豆撒き
鍋の日	3月22日	各ユニットにて「寄せ鍋」
寿司の日	2月15日	ユニットにてお寿司を召し上がっていただく行事
カレーフェア (4条)	2月22日	4条にてカレーを作り提供
季節の料理 (1条)	年2回 (6月・3月)	1条季節の料理作り (冷やし中華・お好み焼き)

※各ユニットで食事行事は定期的実施できている。

医務部門

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ① ご利用者に安心・安全な医療を提供するため、ご利用者及びご家族との面談の機会をもち、情報の共有と信頼関係の構築に努めました。また、必要に応じて、配置医師より病状等の説明を行い、情報の共有を図りました。
- ② 協力医療機関の地域連携室との連絡体制を整理したことで、ご利用者の体調不良時に迅速な医療を受けることができました。ご利用者が入院している協力医療機関等の医療従事者と退院前の情報共有の機会を持ち、スムーズな退院調整に努めました。
- ③ ターミナルケア計画書をご家族の意向をもとに作成、ターミナルケア会議の場でご家族の思いや要望を多職種で共有し、多職種連携でのターミナルケアを実践することができました。
- ④ 新型コロナウイルス感染者が両施設で多発し、都度ゾーニング（隔離対応）を実施しました。感染対策を実施しておりましたが、両施設でクラスターが発生する結果となりました。しかし、迅速かつ的確な初動対応により最小限の感染に留めることができたケースもありました。ゾーニング（隔離対応）中は、ご利用者の皮膚状態の悪化、認知機能の低下、身体能力の低下等がありましたが、医療機関への受診や日々のケアにより回復しています。

(2) 財務視点

施設と協力医療機関で負担する医療物品の適正化を図るとともに、施設で負担する医療物品の種類や購入先を再検討し、経費の抑制に努めました。

(3) 人材確保と育成

新人職員の育成については、日勤帯勤務のベテラン職員が中心になって実践し、医療事故等もなく順調に育成できています。また、新入職員の育成とメンタルケアのため、日々の声かけと必要に応じて面談の機会を設けました。新型コロナウイルス感染者の発生等、常に厳しい環境の中ではありましたが、スタッフ間の協力体制により、ワークライフバランスを目的とした職員の希望休暇取得を実現できました。年度末には、育児休暇明けの職員と、家庭の事情により退職した職員が復帰し、より充実した職員体制を構築できました。

(4) 地域貢献

新型コロナウイルス感染対策により、地域貢献活動は自粛することとなりました。

(5) ガバナンス体制の強化

職員個々のスキル向上を目指し、業務の幅を広げたことで、各職員が和幸園・グリーンハイムの両施設の情報を収集するとともに業務を円滑に遂行できるようになりました。新型コロナウイルスの影響や、利用者の重度化により、医療職として判断を迫られる場面が多くなっているため、チームとしての報連相の徹底を図り、コミュニケーションエラーが発生しないように取り組んでいきます。

2. 医療業務実績

(1) 和幸園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	101	232	249	235	377	292	270	233	162	280	218	317	2,966
胃ろう栄養	1	1	1	2	2	3	3	3	3	2	2	1	24
浣腸	40	54	91	80	75	38	94	102	94	60	79	77	884
ターミナルケア	17	15	14	15	16	16	16	16	16	15	15	15	186
ご逝去	2	2	1	2	0	1	0	2	1	1	0	0	12
救急搬送 日中	1	1	3	0	0	1	3	0	1	1	0	1	12
救急搬送 夜間	2	3	2	1	2	0	2	0	2	3	1	0	18
待機出動	3	5	7	8	5	6	10	2	1	4	1	1	53

(2) グリンハイム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療処置数	274	269	306	242	138	329	319	114	314	357	295	335	3,292
胃ろう栄養	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	73
ターミナルケア	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	14
救急搬送 夜間	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	2	1	7

栄養・食事部門

1. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、可能な限り食事の行事が実施できるように努めるとともに、食事形態の幅を広げることやおいしい食事の追求のため、委託業者と意見交換を実施しました。また、栄養ケアマネジメントを行い、ご利用者個々にあった栄養ケアの提供を遂行しました。

(2) 財務視点

各施設における栄養関係の各種加算について、算定要件を確認し、適切に算定を継続することができました。支出に関しては、物品購入、修理、行事等、予算に合わせて計画的に執行することができました。

(3) 人材確保と育成

研修、勉強会の開催方法がリモート研修となったことで、各自のスケジュールに合わせた参加が可能となりました。今後、外部研修会等へも積極的に参加し、最新の情報の取得に努めていきます。また、施設管理栄養士と委託業者所属管理栄養士や厨房職員との定期的な全体ミーティングは、新型コロナウイルス感染対策により開催を休止し、必要に応じたミーティングと日々のコミュニケーションの強化により情報の共有と食事の質の向上に取り組みました。

(4) 地域貢献の推進

施設利用者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族の栄養相談を実施しました。

(5) ガバナンスの強化

2022年度は、両施設において新型コロナウイルス感染者が発生し、栄養・食事部門が担う施設ケアについて、感染者発生時の特別な対応を法人の方針に沿って実施しました。また、他職種との意見交換をしたうえで、適切な栄養ケアマネジメントを実践することができました。

2. 栄養・食事業務実績

(1) 平均食数(1日あたり/通年)

区 分		食 数
グリーンハイム	入居	92
	短期入居	4
生活介護事業所グリーンハイム		13
和幸園	入居	112
	短期入居	17
和幸園デイサービスセンター		27
計		265

(2) 食事形態

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
常食	54	60	114
やわらか食	28	40	68
ゼリー食	13	12	25
胃婁	6	3	9

(3) 特別食

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	10	13	23
脂肪制限	3	0	3
心臓病	0	9	9
腎臓病	3	3	6
貧血	0	0	0
低残渣食	0	0	0
計	16	25	41

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

月	行事	ポイントメニュー
4	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャン焼き グリーンハイム天ぷらバイキングの日	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ等
7	土用の丑の日 グリーンハイム焼き肉昼食会 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム焼肉昼食会 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9	敬老の日 生活介護事業所グリーンハイム焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い物 焼き肉 ちらし寿司
10	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11	グリーンハイム寿司の日 和幸園味覚祭 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、いくら、エビ、ホタテ等) 栗ごはん、石狩汁 ちらし寿司
12	グリーンハイム・和幸園クリスマス会 法人50周年記念御膳 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1	元旦(1日)、三が日、七草(7日) 鏡開き 生活介護事業所グリーンハイム鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理、雑煮、お寿司等、七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
2	節分 生活介護事業所グリーンハイム鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3	ひなまつり(3日)、お彼岸 生活介護事業所グリーンハイム・和幸園鍋の日 和幸園デイサービス誕生会 和幸園寿司の日	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチゴ饅頭、手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司 海鮮丼

訓練部門

【グリーンハイム機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・リハビリテーション実施計画書に基づくリハビリテーションの他、ご利用者・ご家族のニーズを汲み取り、個別訓練や機械器具を用いた自主訓練等を実施しました。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を適正に実施しました。
- ・ご利用者の生活状況等を把握したうえで、継続可能な生活リハビリや生活リハビリに繋がる介助方法を介護職員等と検討し、助言・提案を行いました。
- ・車いすや補装具等を使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援するため、車いすカンファレンスの定期的開催や義肢装具カンファレンスの随時開催により、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を行いました。

- ・理学療法士として、ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具等）の提案やご利用者・介護者に負担の少ない介護方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブなど）を提案しました。
- ・新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、他ご利用者との関わりを持つ機会や集団の中での役割を持つ機会となる集団訓練を実施し、リハビリテーション効果の他に、社会性を保持することも視野に入れた支援を実践しました。また、ご利用者個々のニーズによっては、和幸園所属の作業療法士に相談し、訓練を実施しました。
- ・ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（脳ゲーム・脳トレパズル・折り紙作品・塗り絵・貼り絵など）を提案し、作品の作製を行い、ご本人の希望に合わせて展示等を行いました。
- ・接遇向上委員会、リスクマネジメント委員会、虐待防止委員会、ターミナルケアチームに参画し、理学療法士としての専門的な提案を行うとともに、チームメンバーとして他職種と協働し、各委員会等の目的達成に努めました。
- ・施設内での新型コロナウイルス感染者発生により、各種訓練を休止せざるを得ない期間が複数回ありました。その期間は、ゾーニング対応グループにおけるご利用者支援の後方支援を実施しました。

2. 訓練業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	140	124	133	125	102	113	121	109	88	94	99	111	1,359
集団訓練	15	32	21	25	28	28	21	29	14	29	15	31	288
参加延べ人数	155	156	154	150	130	141	142	138	102	123	114	142	1,647
リハ日数	20	19	20	19	19	19	21	19	17	17	15	18	223
1日平均延べ人数	7.75	8.21	7.70	7.89	6.84	7.42	6.76	7.26	6.00	7.23	7.60	7.88	7.38

【和幸園機能訓練】

1. 事業報告総括

- ・個別機能訓練加算の適正な算定のため、個別機能訓練計画書及び実施表作成、実施状況確認等の記録整備を継続しました。また、科学的介護推進体制加算算定のため、LIFEの入力に取り組みました。
- ・通常の個別機能訓練の他、必要に応じて、身体機能や残存機能の向上に繋がる個別訓練を実施しました。また、新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、ユニット単位の集団レクリエーションの実施や新春のど自慢大会の開催、歩行運動のモチベーション向上のためのご利用者参加型の壁面飾りの継続等、楽しみのある生活と活動性を高めるための工夫を凝らしたレクリエーション、リハビリテーションに取り組みました。
- ・自立支援介護の推進を図るための離床時間拡大に伴い、車いすや椅子座位での安全・安楽なシーティングの検討を行い、座・背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッション選定、シーティング調整を実施しました。
- ・ご利用者、介護職員の双方にとって安全な介護の実践のために、移乗介助方法の助言・指導や必要に応じてスライディングシートやポジショニンググローブ、シート等の福祉用具の選定、使用方法の助言・指導、靴の選定を行いました。また、介護負担軽減のための介護ロボット（移乗介助機器等）の活用を推進しました。

- ・褥瘡予防、褥瘡の悪化防止として、臥床時のマットレスや座クッション、ポジショニングピローの選択と検討を実施するとともに介護職員へポジショニングや体位交換、動作の助言・指導を行いました。
- ・摂食、嚥下困難者に対し、嚥下状態を確認したうえで、食形態や座位姿勢、食器や自助具、食具の選定を実施するとともに口腔マッサージや嚥下体操、口腔体操を介護職員へ提案し、実践に結びました。
- ・温熱療法として、ホットパックの使用方法をユニット職員に指導しました。
- ・施設内研修では、「職員の腰痛予防」、介護職員の新人研修では、「移乗」を担当し、専門職として施設の職員育成に参画しました。
- ・各委員会（褥瘡・身体拘束廃止・事故対策・感染予防・行事・ターミナルケア等）や各種会議、WEB研修へ参加し、専門職としての意見、助言を行いました。
- ・短期入所部門では、個別ケアの一環としてご利用者やご家族、ケアマネジャーとの連携を図り在宅生活を継続できるよう助言や指導を行いました。
- ・短期入所部門の新しい取り組みとして、「ショートステイユニットレクリエーション」を毎日実施し、職員も一緒に楽しむ時間を設け、活気あるショートステイを定着できるよう企画、運営に参画しました。
- ・施設内での新型コロナウイルス感染者発生により、各種訓練を休止せざるを得ない期間がありました。その期間は、ゾーニング対応ユニットにおけるご利用者支援の後方支援を実施しました。
- ・ユニット職員の要請により、ユニットのサポートとして移乗介助や食事、排泄介助や歩行、掃除などのフォローを実施しました。

2. 訓練業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別訓練	入居	60	95	83	55	47	51	46	27	33	31	42	48	618
	ショートステイ	141	135	95	50	66	66	86	84	44	71	56	72	966
集団訓練	入居	71	106	74	69	101	99	119	59	78	99	110	120	1,105
	ショートステイ	0	15	12	11	20	10	13	27	1	25	13	53	200
リハ日数		21	22	22	19	20	21	23	21	14	20	17	24	244
1日平均人数		12.95	15.95	12.00	9.73	11.70	10.76	11.47	9.38	11.14	11.30	13.00	12.20	11.84

通所事業部各事業所の事業報告

和幸園デイサービスセンター ～ since 1993 ～

1. 事業報告総括

2022年度の年間平均利用実績は26.5名と、予算実績を大きく下回る結果となりました。新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、ご利用者の自主的な利用自粛や高齢者住宅等の運営法人の自粛要請に基づく利用休止、また、併設の短期入所生活介護事業所や入居施設での感染者の発生、そして、昨年7月に起きた当事業所内のご利用者と職員の感染者の発生等の要因により利用実績の大きな減少を招きました。また、登録者数が昨年度比で10名減少しており、新規利用者の確保も課題となっています。

事業所運営については、人的コストの削減と合理的な職員配置を目的として、各専門職の業務内容と役割の見直しを図りました。また、新しい取り組みとして、介護職員の入浴誘導係を配置し、ホールと入浴の双方の状況を把握することで、職員間のコミュニケーションの円滑化及び入浴体制の強化とご利用者の待機時間の減少に繋がる取り組みを実践しました。さらに、看護職員の勤務時間を日々の利用人数に合わせた勤務配置に見直し、事業所運営の効率化に取り組みました。

サービス内容については、新型コロナウイルス感染症の対策をしたうえで、花見や施設見学等の外出レクを再開した他、新しく一人ひとりのご利用者の希望に沿った少人数の外出レクを企画、実践しました。また、近隣の生鮮食品店や100円ショップ等への買い物レク、春から秋にかけて駒岡保養センターや近隣の公園等でのパークゴルフ、冬には藤野の室内パークゴルフ場に赴き、できる限り、個々のご利用者のニーズに沿ったサービスの提供に取り組みました。また、無償ボランティアによる美文字講座、外部の関係機関と連携した配食弁当お持ち帰りサービスを実施し、他事業所との差別化、付加価値創りに取り組みました。

そして、自立支援介護を実践する事業所として、基本ケア「水分・食事・排便・運動」について定期的に学べる研修の機会を設け、知識と技術を深めるとともに、研修を通して職員のモチベーション向上や専門性の高いサービス提供を実践できるよう取り組みました。

最後に、新型コロナウイルス感染症収束の兆しは未だ見えない状況ではありますが、ご利用者が安心して笑顔で過ごしていただけるように、社会情勢に柔軟に対応した新しい発想での事業所運営を実践するとともに事業所の魅力や付加価値を明確にし、情報発信をしていきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
生活相談員	3	1	2	0	0	社会福祉士1名／介護福祉士2名 介護職員兼務2名
介護職員	16	7	2	7	0	常勤9名 非常勤7名：介護福祉士14名
看護職員	4	0	0	0	4	機能訓練指導員兼務4名
機能訓練指導員	4	1	0	0	3	理学療法士、看護職員 看護職員兼務4名

(2) 職員研修実施状況

事業所内定期研修（基本ケア他）
認知症実践者研修参加（1名）

(3) ご利用者状況（基準：2023年3月利用者）

① 利用登録者状況

※（ ）内は入院等の休止者

2022. 3. 31	2022. 4. 1～2023. 3. 31		2023. 3. 31
登録者	新規登録者	廃止者	登録者
111 (25)	32	42	101 (19)

② 年齢別状況

～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
								2022年度	2021年度
0	4	4	7	16	33	16	2	82	86

③ 要介護状態区分状況

	要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
2022年度	7	12	33	17	8	2	3	82
2021年度	6	9	41	16	5	4	5	86

④ ADL区分

	自 立	一部介助	全介助
歩行	61（車椅子自走含む）	19	2
排泄	69	9	4
食事	75	5	2
入浴	47	31	4
更衣	58	18	6

⑤ 廃止理由状況

	2022 年度	2021 年度
死亡	9	4
入所・入居	10	12
入院	11	14
引越し	1	0
その他	11	14
計	42	44

⑥ 月別利用者状況

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2021年
実利用者数	95	94	93	89	85	80	81	83	85	81	83	82	1,031	1,199
延利用者数	728	765	767	725	597	668	687	654	678	602	615	735	8,221	9,440
要支援1	28	32	30	36	26	32	29	28	29	26	26	27	349	357
要支援2	76	80	73	59	70	58	65	55	60	55	66	93	810	1,089
要介護1	356	387	395	386	279	311	308	288	264	256	274	301	3,805	4,373
要介護2	157	153	154	143	144	146	153	145	181	152	136	183	1,847	2,318
要介護3	54	46	49	47	42	73	84	82	86	75	78	93	809	579
要介護4	26	35	36	33	13	17	16	22	23	5	5	16	247	249
要介護5	31	32	30	21	23	31	32	34	35	33	30	22	354	475
開所日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310	310
平均利用者数	28.00	29.42	29.50	27.88	22.11	25.69	26.42	25.15	26.07	25.08	25.62	27.22	26.51	30.45

(4) 苦情受付件数

	件 数
介護に関すること	0
職員に関すること	1
その他	0
計	1

(5) 事故報告件数

	件 数	うち医療機関受診	2021年度
転倒	11	2	14
介護上の事故	0	0	1
異食	0	0	0
誤薬	0	0	1
その他	10	0	5
ヒヤリハット	3	0	1
計	24	2	22

(6) 行事及び活動実施状況

月	日程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月	4月4日～4月9日(6日間)	プロフィールカードを作ろう	169名
5月	5月5日～5月7日(3日間)	お花見ドライブ	57名
6月	6月9日～6月11日(3日間)	ピリカコタン	53名
7月	7月7日～7月9日(3日間)	豊平公園レク	52名
	8月～10月	ドライブレク	106名
8月	8月8日～8月10日(3日間)	七夕・夏祭り	82名
9月	9月19日(1日間)	敬老会	32名
10月	10月6日～10月8日(3日間)	紅葉レク	51名
11月	11月17日～11月19日(3日間)	スイーツレク	70名
12月	12月19日～12月24日(6日間)	クリスマス会	153名
1月	1月4日～1月7日(4日間)	お正月レク	104名
2月	2月1日～2月4日(4日間)	節分(年男、年女記念撮影含む)	90名
3月	3月13日～3月18日(6日間)	年度末ゲーム大会	211名

(7) 実習生受入れ状況

星槎道都大学 1名 期間：6月20日～7月21日(計23日間)

北翔大学 1名 期間：8月31日～9月30日(計23日間)

(8) 地域貢献事業

新型コロナウイルス感染対策により休止

和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森 ～ since 2007 ～

1. 事業報告総括

2022年度は、1日平均利用者数9.5名を目指し、事業所の運営に取り組みました。新規利用者については、法人内居宅介護支援事業所からの紹介が3名(前年度8名)、法人外居宅介護支援事業所からの紹介が10名(前年度10名)となりました。一方、施設入居等による廃止者数は16名となり、2023年3月31日時点での登録者数は26名、年間平均利用者数は9.27名(前年度8.61名)となりました。

2022年12月に新型コロナウイルス感染症の事業所内クラスターが発生し、事業休止を余儀なくされたことや長期入院による休止や施設入居等での利用廃止等により、年間目標実績を下回る結果となりました。しかし、年間の相談件数は19件、新規利用者数13件と順調にご利用者の紹介を得ることができており、法人内外の居宅介護支援事業所からの当事業所の認知症ケアに対する理解が高まっていると実感しています。今後も当事業所の強みや特色等を明確にしたうえで、情報発信力の強化に取り組みます。

事業所運営については、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、行事等の規模縮小を余儀

なくされましたが、行事担当職員らが中心となり、心のこもった温かい内容での行事開催を行うことができました。ドライブ等の外出も再開し、外気に触れて季節を感じていただける機会を設けることができました。また、毎日の軽作業（タオルたたみ、干し、食器拭きなど）や、家庭菜園の苗植えや野菜の収穫などを行っていただくことでご自身の役割を感じていただけるように努めました。

新型コロナウイルス感染対策に取り組み続けて3年を迎えました。未知のウイルスとの闘い、そして共存ということで、対応に苦慮することも多々ありましたが、事業所を守っていくという強い気持ちで職員が一つになり続けた3年でもありました。今後ご利用者やご家族の気持ちに寄り添いながら、専門性の高いケアを提供し、地域に暮らす認知症の方々が幸せに暮らしていけるように、また選ばれる事業所であり続けられるように、心を込めたケアを実践していきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	介護福祉士 生活相談員兼務
生活相談員	2	0	2	0	0	介護福祉士2名 介護職員兼務1名
介護職員	12	0	1	11	0	常勤1名、非常勤11名：介護福祉士10名
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務3名
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務3名

(2) 職員研修実施状況

開催日	研修名	主 催
2022. 11. 10	腰痛予防と体操について	事業所
2023. 2. 10	新型コロナウイルス感染症について	事業所

(3) ご利用者状況（基準：2023年3月利用者）

① 利用登録者状況

	2022. 3. 31	2022. 4. 1～2023. 3. 31		2023. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男性	6	3	5	4
女性	23	10	11	22
計	29	13	16	26

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計		平均年齢	
									2022	2021	2022	2021
男性	0	0	0	1	1	2	0	0	4	6	84.0	80.3
女性	0	0	2	2	3	8	7	0	22	23	85.1	88.2
計	0	0	2	3	4	10	7	0	26	29	84.6	84.3

③ 要介護状態区分状況

	介護度						計
	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
2022 年度	0	10	7	5	4	0	26
2021 年度	0	15	4	4	6	0	29

④ ADL 状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	3	18	21	1	4	5	0	0	0
排泄	4	18	22	0	4	4	0	0	0
食事	4	20	24	0	2	2	0	0	0
入浴	1	9	10	3	10	13	0	3	3
着脱衣	2	10	12	2	12	14	0	0	0

⑤ 認知機能状況

	記憶障害				失見当識			
	重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性	1	2	1	4	0	1	3	4
女性	4	16	2	22	3	8	11	22
計	5	18	3	26	3	9	14	26

⑥ 認知症状類型

類 型	2022 年	2021 年
アルツハイマー型認知症	16	16
レビー小体型認知症	0	2
脳血管性認知症	0	1
ピック病（前頭側頭型）	0	0
その他（混合型・不明）	10	10

⑦ 廃止理由状況

	男 性	女 性	計	
			2022	2021
死亡	0	1	1	1
長期欠席	0	1	1	2
入院・入居	5	8	13	12
その他	0	1	1	2
計	5	11	16	17

⑧ 利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性		1	2	1	0	0	4
女性		2	10	3	5	2	22
計	2022	3	12	4	5	2	26
	2021	4	6	4	13	2	29

⑨ 月別利用者状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2020年
実利用者数	28	28	29	30	29	31	30	30	29	28	26	25	343	285
延利用者数	205	233	237	268	274	268	266	247	175	212	204	222	2,811	2,679
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	74	91	90	99	96	99	101	104	84	104	84	77	1,103	1,026
要介護2	30	37	42	41	41	46	40	38	23	33	46	55	472	5056
要介護3	65	73	75	90	98	85	86	63	37	36	43	60	811	612
要介護4	36	32	20	27	28	27	28	31	24	29	28	30	340	536
要介護5	0	0	10	11	11	11	11	11	7	10	3	0	85	0
開所日数	26	26	26	26	26	26	26	26	19	24	24	27	302	310
平均利用者数	7.88	8.96	9.11	10.30	10.53	10.30	10.23	9.50	9.21	8.83	8.50	8.22	9.30	8.64

(4) 苦情受付件数

	件数	
	2022年度	2021年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	0
計	0	0

(5) 事故報告件数

	件数	
	2022年度	2021年度
転倒	4	3
介護上の事故	0	1
異食	1	0
その他	6	1
ヒヤリハット	5	4
計	16	9

(6) 行事及び活動実施状況

月	行事
4月	音楽療法
5月	端午の節句・のえるの森誕生会～祝15歳～・苗植え・音楽療法
6月	音楽療法
7月	音楽療法・避難訓練
8月	夏祭り・音楽療法
9月	敬老会・大道芸・音楽療法
10月	音楽療法
11月	音楽療法
12月	クリスマス会・大道芸・音楽療法
1月	初笑い・音楽療法
2月	節分・避難訓練
3月	ひな祭り・音楽療法

(7) 実習生受入れ状況

新型コロナウイルス感染対策により休止

(8) 地域貢献事業

新型コロナウイルス感染対策により休止

和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森 ～ since 2018 ～

1. 事業報告総括

2022年度は新型コロナウイルス感染症への対策を継続しながらも、事業所を利用する皆様にごどのように満足度の高いサービスを提供していくかを考える1年となりました。収束の見えない新型コロナウイルスと向き合いながら、ご利用者の生活の質を高めるために事業所が求められている役割を考え、事業所運営を継続してきました。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症の影響や入院者増加等の影響を受けながらも、年間を通しては一日の平均利用者数14.9名と前年度実績よりは若干の減少は見られたものの、目標は達成することができました。年間新規利用者数が9名に留まる中、状態の変化からの入院や施設入居、ご逝去等の理由から廃止者は14名となり、年度末の登録者数は64名と昨年度と比べ減少しています。安定した事業所運営を継続していくために、ご利用者・ご家族、そしてケアマネジャーのニーズに応えていける事業所を目指していくことが今後の課題となります。登録者数の傾向は大きく変わらず、要支援のご利用者が多く、在宅生活の質を維持していきたいという世間のニーズを感じます。新型コロナウイルスとの向き合い方も年々変化している中で、今後もご利用者ファーストの精神で事業所運営に取り組んでいきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士／主任介護支援専門員 併設事業所管理者兼務
生活相談員	2	0	2	0	0	介護福祉士2名 介護職員兼務2名
介護職員	9	0	2	7	0	常勤2名、非常勤7名：介護福祉士6名
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士

(2) 職員研修実施状況

開催日	研修名	主 催
2022. 4. 18	事故対応・リスク管理・緊急時対応について	事業所
2022. 5. 16	パーキンソン病について	事業所
2022. 6. 20	みんなで考える認知症ケア	事業所
2022. 7. 11	海外の認知症介護事情	事業所
2022. 8. 22	感染症対策について	事業所
2022. 9. 12	非常災害対策について	事業所
2022. 10. 17	身体拘束、虐待防止・プライバシー保護について	事業所
2022. 11. 21	水分摂取の重要性について	事業所
2022. 12. 19	社会福祉法人で働く職員の倫理及び法令遵守	事業所
2023. 1. 16	介護業界における動物セラピー事情	事業所
2023. 2. 20	介護予防・要介護度進行予防について	事業所

(3) ご利用者状況（基準：2023年3月利用者）

① 利用登録者状況

	2022. 3. 31	2022. 4. 1～2023. 3. 31		2022. 3. 31
	登録者	新規登録者	廃止者	登録者
男性	30	5	6	29
女性	42	4	11	35
計	72	9	17	64

② 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男性	0	0	6	4	5	6	7	1	29	83.2
女性	0	1	1	4	14	6	7	2	35	82.5
計	0	1	7	8	19	12	14	3	64	82.8

③ 要介護状態区分状況

	要支援 1	要支援 2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男性	11	3	10	1	3	1	0	29
女性	12	11	10	1	1	0	0	35
計	23	14	20	2	4	1	0	64

④ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	25	32	57	4	3	7	0	0	0
排泄	28	34	62	1	1	2	0	0	0
食事	28	34	62	1	1	2	0	0	0
入浴	20	31	51	9	4	13	0	0	0
着脱衣	25	33	58	4	2	6	0	0	0

⑤ 疾病別利用状況 33

疾病種別	2022 年度	2021 年度	疾病種別	2022 年度	2021 年度
関節疾患（膝・腰・股・肩）	30	29	呼吸器疾患	2	3
糖尿病	8	11	統合失調症	1	1
認知症	13	21	脳梗塞等後遺症	13	14
鬱病	2	3	心疾患	8	7
パーキンソン病関連疾患	3	4	その他	11	34

⑥ 廃止理由状況

	男性	女性	計	
			2022 年度	2021 年度
死亡	2	2	4	1
長期欠席	0	0	0	1
入院・入居	1	3	4	4
その他	3	3	6	6
計	6	8	14	12

⑦ ご利用者世帯状況

	独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性	3	19	3	1	3	29
女性	13	4	6	5	7	35
計	16	23	9	6	10	64

⑧ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2021年
実利用者数	67	69	66	67	66	64	62	61	58	57	58	59	754	775
延利用者数	341	321	347	342	345	321	307	299	258	275	300	330	3,786	3,832
要支援1	73	77	86	83	86	86	88	91	70	78	84	96	998	1,081
要支援2	95	93	102	104	94	93	81	76	63	75	83	104	1,063	962
要介護1	96	83	84	89	93	75	73	78	76	77	82	75	981	990
要介護2	53	42	44	42	37	22	30	28	22	19	15	10	364	621
要介護3	24	22	27	22	33	45	35	26	27	26	32	36	355	178
要介護4	0	4	4	2	2	0	0	0	0	0	4	9	25	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開所日数	21	19	22	22	22	22	21	22	20	20	20	23	254	252
平均利用者数	16.23	16.89	15.77	15.54	15.68	14.59	14.61	13.59	12.90	13.75	15.00	14.34	14.90	15.20

(4) 苦情受付件数

	件数	
	2022年度	2021年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	0
計	0	0

(5) 事故報告件数

	件数	
	2022年度	2021年度
転倒	4	6
介護上の事故	1	0
異食	0	0
その他	1	4
ヒヤリハット	4	20
計	10	30

(6) 実習生受入れ状況

新型コロナウイルス感染対策により休止

(7) 地域貢献事業

新型コロナウイルス感染対策により休止

生活介護支援事業所グリーンハイム ～ since 1996 ～

1. 事業報告総括

昨年に続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、札幌市内の感染状況が目まぐるしく変化する1年となりました。当事業所のご利用者・職員の感染もありましたが、幸いにも同時に複数名感染するクラスターには至らず、事業休止することなくご利用者を受け入れることができました。日頃からご利用者・ご家族・職員それぞれが感染予防に取り組み、感染防止にご協力頂いたことで事業運営の継続が行えたことは、今後も事業所の大きな力となると実感しています。

経営状況としては、新型コロナウイルス感染症拡大により、ご利用者の自主的な利用自粛や併設する障がい者支援施設で新型コロナウイルス感染者が複数発生したことでのご利用者の利用休止等が影響し、目標であった1日平均利用者数14.0名を達成することはできませんでした。しかし、1日平均利用者数が12.73名と、前年度比で0.07名(延べ172名)の実績増加になりました。障がい支援区分5・6の割合は64%を超え「人員配置体制加算I」の取得を継続することができました。2023年度においても、重度ご利用者の受け入れを継続し、障がい支援区分5・6割合60%以上を確実に維持するために、日々の実績管理に努めていきます。

職員状況としては、3名のパート職員が年齢や体調・勤務形態の変更を理由に退職しましたが、粘り強く求人活動を行い、3名の職員を採用できました。新型コロナウイルス感染症拡大により、いつ自分自身が感染者となるかわからない恐怖と戦いながらも、専門職としてご利用者の支援を続けてくれた職員を誇りに思います。今後もこの人財を大切にしていくとともに、職員育成を継続し、事業所の安定運営に取り組んでいきます。

今後は、ご利用者の高齢化による利用廃止者の増加が予想されるため、相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、また、ショートステイと併用が可能な事業所である強みを最大限に活かしたご利用者の確保に取り組んでいきます。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士 併設事業所管理者兼務
サービス管理責任者	1	1	0	0	0	介護福祉士
介護職員（生活支援員）	14	3	0	11	0	常勤3名、非常勤11名（常勤換算9.6名） ：介護福祉士9名
看護職員	2	0	0	0	2	機能訓練指導員兼務2名（常勤換算0.6名）
機能訓練指導員	2	0	0	0	2	看護職員兼務2名（常勤換算0.2名）

(2) 職員研修実施状況

法人研修参加のみ

(3) ご利用者状況（基準：2023年3月実利用者数）

① 利用登録者状況

区 分	2022. 3. 31	2022. 4. 1 ~ 2023. 3. 31		2023. 3. 31
	登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数
男性	16	0	0	16
女性	24	1	0	25
計	40	1	0	41

② 年齢別状況

区 分	～20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満
男性	0	1	2	2	2	4
女性	0	1	4	9	2	3
計	0	2	6	11	4	7
区 分	70歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	5		16	22	77	58.06
女性	6		25	27	83	53.52
計	11		41			55.29

③ 疾患別・障害程度区分別状況

	疾患別状況			障がい支援区分別状況									
	男性	女性	計	2		3		4		5		6	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳性麻痺	3	9	12	0	0	1	0	0	1	0	2	2	6
脳血管障害	4	3	7	0	0	1	0	2	2	0	0	1	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	2	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
視覚障害	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
リウマチ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知的障害	3	2	5	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0
その他	3	8	11	0	0	2	3	0	0	0	1	1	4
計	16	25	41	0	0	4	4	5	3	1	5	6	13

④ ADL 状況

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自 立	計	全介助	一部介助	自 立	計
脳性麻痺	4	4	4	12	8	2	2	12
脳血管障害	1	0	6	7	1	4	2	7
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	0	1	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	0	2	3	5	1	2	2	5
その他	4	3	4	11	5	3	3	11
計	9	13	19	41	17	13	11	41
	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自 立	計	全介助	一部介助	自 立	計
脳性麻痺	8	1	3	12	8	4	0	12
脳血管障害	1	2	4	7	1	5	1	7
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	1	0	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	2	3	0	5	3	2	0	5
その他	6	1	4	11	6	3	2	11
計	17	11	13	41	22	14	5	41

⑤ 廃止理由状況

	男 性	女 性	計	2021 年度
死亡	0	0	0	0
長期入院	0	0	0	1
施設入居	0	0	0	0
地域移行	0	0	0	0
その他	0	0	0	1
計	0	0	0	2

⑥ 月別利用状況

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2021 年度
実利用者数	37	35	37	38	37	35	38	38	37	39	39	41	451	453
延利用者数	305	261	309	308	309	284	297	291	262	298	302	351	3,577	3,405
区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	70	60	73	70	73	65	57	63	67	66	69	78	811	709
区分4	49	32	42	38	42	34	40	35	29	36	39	42	458	518
区分5	19	25	32	29	29	30	29	25	21	27	27	37	330	232
区分6	167	144	162	171	165	155	171	168	145	169	167	194	1,978	1,946
開所日数	24	22	25	24	25	23	24	23	23	22	21	25	281	269
平均利用者数	12.70	11.86	12.36	12.83	12.36	12.34	12.37	12.65	11.39	13.54	14.38	14.04	12.72	12.65
区分5・6割合	60.98	64.75	62.78	64.93	62.78	65.14	67.34	66.32	63.35	65.77	64.23	65.81	64.52	63.96

(4) 苦情受付件数

	件数	第三者機関依頼
職員との関係	0	0
運営等関係	0	0
計	0	0

(5) 事故発生状況

	件数	施設外受診対応	2021年度
転倒	3	0	0
誤薬	0	0	0
介護事故	1	0	0
その他	3	0	3
計	7	0	3

(6) 行事及び活動実施状況

月	行事	創作活動
4月	おやつパーティー3回	折り紙製作教室、鯉のぼり飾り製作
5月	園芸活動～花、野菜などの植物の苗を植えよう	雨のしずく・虹の壁面製作
6月		夏の飾り作り、調理教室
7月	バーベキュー（中庭にて）1回	七夕飾り製作
8月	バーベキュー（中庭にて）4回、園芸活動～野菜を収穫しよう	折り紙製作教室、秋の飾り作り
9月	縁日レク 4回	ハロウィン飾り製作
10月	焼き芋パーティー 4回	ハロウィン飾り製作、凧作り
11月		クリスマス飾り製作
12月	クリスマス会 1回	正月飾り製作
1月	新春ビンゴゲーム大会 6回、鍋料理の日（寄せ鍋）2回	春の飾り作り、節分お面作り
2月	節分の豆まき、鍋料理の日（寄せ鍋）3回	ひな祭り飾り製作
3月		桜の木・花制作

【スポーツレク活動】

スカットボール、ボウリング、ホームランゲーム、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、射的、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、ペタンク、ペットボトルサッカー、豆まめリレー、アニマルゲーム、輪投げ、的あてゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

【個別活動】

ストレッチ、将棋、オセロ、塗り絵、和紙工作、数学勉学、DVD視聴、編み物、日光浴、歩行訓練（廊下内）、館内散歩

(7) 実習生受入れ状況

鹿光学習センター 介護福祉実務科 通所施設実習 3名

(8) 地域貢献事業

新型コロナウイルス感染対策により休止

地域事業部各事業所の事業報告

和幸園指定居宅介護支援事業所 ～ since 2000 ～

1. 事業報告総括

2022年度実績は、月平均要介護者数189.2件、要支援者数37.0件の合計226.2件となり、前年度に続き目標実績を大きく上回る結果となりました。事業所の基本方針である「地域住民から信頼を得られるような包括的支援の展開」に職員全員で取り組むとともに、相談のあったケースに対しては可能な限り迅速且つ丁寧に対応するという姿勢を常に意識して取り組み続けたことが結果に結びついたと考えます。

新規ケースについては、地域包括支援センターからの紹介や他法人居宅介護支援事業所からの移管ケースが多くありましたが、直接ご利用者様家族からの電話相談も増えており、これまで真摯にご利用者に向き合ってきた当事業所の姿勢が評価されていると考えます。

職員状況は退職等もなく安定しており、引き続き各介護支援専門員の基礎資格での業務経験や専門性を十分に発揮し、事業所全体として常に質の高い支援が提供できるよう、個々のスキルアップに取り組んでいきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続しました。また、積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障がいとの関連性について精査しご利用者の生活課題の解決に努めました。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に支援を行い、独立且つ幅広い関係機関との連携を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践しました。

③ 説明責任について

制度改正に伴う情報やケアプランの内容をご利用者に適切な方法で分かりやすく説明しました。

④ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努めるとともに、関係機関から依頼のあった緊急ケースに対し迅速に対応した。担当ご利用者で虐待の疑いがある場合は、札幌市・地域包括支援センターへの相談を行い、適切に対応を図りました。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるように各ケアマネジャーが連携し対応を行いました。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのうえで対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援しました。

(2) 財務の視点

① サービス提供エリアにおける情報収集

関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける福祉サービスの動向を把握することに努めました。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域の各種サービス事業所との連携強化に努めました。2021年度に比べ新規利用者数は減少していますが、一方で給付管理数は増えていることから、利用終了とならずに在宅生活が継続できているご利用者が増えていると分析しています。

③ 新規ケースの確保

あらゆる相談に可能な限り即時対応し、特に医療機関や地域包括支援センターからの紹介ケース、地域の方からの直接のご相談に積極的に対応し、新規利用者の確保に努めました。

④ コスト管理の徹底

職員全員で業務分担を行い、業務の効率化を推進しました。また、効率的な訪問を意識したスケジュールを組み立てることで、時間のコスト管理やガソリン等の経費の節減に努めました。

(3) 人材確保と育成

職員間の円滑なコミュニケーションにより、事業所全体のチーム力が向上し、バーンアウトや離職防止に繋がりました。育成面については、個別面談の実施や主任ケアマネジャーを中心としたスーパーバイズ、伝達会議での個別ケースの検討（事例検討会）や勉強会の開催等により、職員個々のスキルアップと同時に事業所としての質の向上に努めました。

(4) 地域貢献の推進

① 地域に密着した相談機関として、担当地域である南区第1地域包括支援センターからの相談件数を引き続き維持することができました。また、介護予防センターや民生委員の方々との連携を継続しました。

② 例年地域貢献事業として実施している「お茶の間懇談会」や「いしやま朝市バス」の運行については、新型コロナウイルス感染症の影響により休止しましたが、2023年度には再開する予定で準備を進めています。

(5) ガバナンス体制の強化

① 運営基準の遵守のため、定期的に介護保険制度の勉強会を行うとともに、不備のない分かりやすい記録の整備に努めました。

② プライバシーの尊重と秘密保持の徹底を目的として、個人情報の安全な取り扱いのマニュアルの定期的な見直しを行いました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職種	人数	区分				備考
		常勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士／介護福祉士 主任介護支援専門員兼務
主任介護支援専門員	3	1	2	0	0	社会福祉士／介護福祉士2名 管理者兼務1名 社会福祉士／精神保健福祉士1名 併設事業所管理者兼務
介護支援専門員	4	4	0	0	0	介護福祉士3名、柔道整復師1名

(2) 職員研修実施状況（外部研修及び合同事例検討会）

開催日	研修名	参加者
2022. 6. 3	第1回 心不全チーム勉強会	介護支援専門員1名
2022. 6. 22	「身元保証人」研修会（つなぐ）	介護支援専門員6名
2022. 6. 22	独居高齢者現状と課題（南区在宅ケア連）	介護支援専門員3名
2022. 6. 30	「神経筋疾患を学ぶ」	介護支援専門員5名
2022. 7. 13	「アセスメント」（ケアマネ連協南区支部）	介護支援専門員7名
2022. 7. 20	「オレオレ詐欺等の特殊詐欺」（愛全ケアプランセンター南の絆）	介護支援専門員3名
2022. 7. 22	「なるほど!なっとく!実になる成年後見人制度（実践編）」（南区第1包括）	介護支援専門員5名
2022. 8. 4	介護支援専門員 専門研修Ⅰ-①	介護支援専門員1名
2022. 8. 25	「精神科医療を必要とする方々との関り方や支援の方法について」（ケアマネ連協）	介護支援専門員1名
2022. 9. 8	「心不全患者の栄養管理」	介護支援専門員4名
2022. 9. 8	第1回合同事例検討会	介護支援専門員5名
2022. 9. 12	パーキンソン病の疾患理解（北海道脳神経外科病院サロンあうる）	介護支援専門員5名
2022. 9. 14	「知っていますか看多機」南区の地域課題認知症を考える（在宅ケア連）	介護支援専門員2名
2022. 9. 26	「地域のインフォーマルサービスについて」（ケアマネ連協南区支部）	介護支援専門員1名
2022. 9. 26	介護支援専門員 専門研修Ⅰ-②	介護支援専門員1名
2022. 10. 11	介護支援専門員 専門研修Ⅱ	介護支援専門員1名
2022. 10. 27	ケアラー支援（北海道介護支援専門員協会）	介護支援専門員3名
2022. 10. 28	高齢者の依存症問題〔第1回事例検討会〕	介護支援専門員2名
2022. 11. 28	主任ケアマネ研修	介護支援専門員1名
2022. 12. 9	「ACP」（ケアマネ連協南区支部）	介護支援専門員3名
2022. 12. 23	予防従事者研修	介護支援専門員1名
2023. 2. 15	「精神疾患の理解と支援」（ケアマネ連協南区支部）	介護支援専門員3名
2023. 3. 4	主任ケアマネ更新研修	介護支援専門員1名
2023. 3. 6	2022年度札幌市高齢者虐待対応研修〔介護支援専門員編〕	介護支援専門員1名
2023. 3. 7	第2回合同事例検討会	介護支援専門員4名
2023. 3. 8	「介護保険部会の審議から見える法改正の方向性」	介護支援専門員2名
2023. 3. 9	「心不全と運動療法」	介護支援専門員1名
2023. 3. 16	「適切なケアマネジメント手法」普及推進セミナー	介護支援専門員1名

(3) 利用者状況

① 居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	合計
4月	89	47	20	15	14	3	188	36	224
5月	89	51	19	13	13	4	189	38	227
6月	95	50	17	16	14	3	195	39	234
7月	95	49	16	12	11	6	189	40	229
8月	90	50	18	11	13	7	189	39	228
9月	89	50	20	11	12	6	188	39	227
10月	91	50	21	14	11	3	190	38	228
11月	92	50	22	15	11	1	191	36	227
12月	93	52	19	14	11	4	193	35	228
1月	91	50	18	13	10	5	187	35	222
2月	87	53	18	12	9	4	183	36	219
3月	85	58	19	14	9	4	189	34	223
合計	1,086	610	227	160	138	50	2,271	445	2,716
2021年度	1,086	608	236	173	101	42	2,246	415	2,661

② 新規利用者紹介経緯（給付管理を行った件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2021年度
病院	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4	5
法人内紹介	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	5	7
ご利用者家族	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	6	14
南区第1包括	2	2	2	3	1	0	1	0	0	1	3	2	17	15
南区第2包括	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
南区第3包括	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	3
予防センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
南区紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話	0	0	1	2	0	0	1	0	2	0	0	0	6	1
来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他居宅	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	1	3	9	4
他事業所紹介	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	10
計	4	5	7	9	1	1	8	2	2	5	6	6	56	65

和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所 ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

2022年度は、サービス提供責任者3名体制が定着した年となりました。登録ヘルパーは、2名退職したものの、新たに2名の登録ヘルパーを採用し、経営規模を縮小した状態での運営継続となりました。

経営実績としては、高齢者住宅等での新型コロナウイルス発生のため、訪問を制限された時期もあり、年間を通じて厳しい状況となりましたが、新規利用者の積極的な受け入れとサービス提供責任者の稼働時間の増加、また、活動交通費等の経費の見直しに取り組みました。サービス提供責任者の事業所全体における稼働時間割合は、2021年度が16%、2022年度は19%と増加し、1番多い月では25%まで増やすことができました。ヘルパー1人当たりの月の平均稼働時間は、2021年度とほぼ変化なく推移しましたが、登録ヘルパーの高齢化による働き方の変化と、安定的なサービス提供の間に、課題も見えてきました。このような課題を乗り越えていく1つの施策として、業務の効率化を目指したICTシステムの導入に取り組みました。ヘルパー活動の報告をICT化することにより、業務の効率化とペーパーレス化に成功しました。2023年度から本格稼働となるため、その評価とさらなる効率化を目指した改善に取り組んでいきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・わずか2日間ではありましたが、看取りの利用者の受け入れをすることができました。住み慣れたご自宅でご家族の声に包まれながら、その時を迎えることができたことと聞き、短期間ではありましたが、支援できたことはヘルパーとしてやりがいを感じました。何よりも看取りを受け入れたことで、ヘルパーとしてどのような支援ができるのか、そして、どんなことを学ばなければならないのか等、今後に向けての課題も見えてきました。

(2) 財務視点

- ・ヘルパー1人当たりの1カ月平均稼働時間数は、目標の35時間をクリアすることができました。しかし登録ヘルパーの年齢層が上がってきており、またヘルパー個々の健康状態や家族の状況、働き方の希望もあることから、無理なく仕事を継続してもらえよう調整していく必要がありました。
- ・テレッサモバイルの導入を決め、業務の効率化やペーパーレス化を進めることができました。それに伴い登録ヘルパーの月末の書類提出を廃止することができ、業務負担を軽減することができました。

(3) 人材視点

- ・ヘルパーとしての専門性及びモチベーション向上のため、職員個々の要望に沿った研修を実施しました。今後は、外部研修や実技での研修を取り入れていきたいと考えています。
- ・現在の登録ヘルパーが無理なく仕事を継続できるよう、定期的な面談等を行うことで一人ひとりの希望する働き方等を把握し、調整することができました。
- ・ヘルパー会議は、新型コロナウイルスの市中感染状況に応じて、Zoomと対面での会議を併用することで毎月開催でき、情報共有や研修を行うことができました。

(4) 地域貢献視点

- ・地域住民より公開調理実習開催の依頼を受けましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開催することができませんでした。2023年度の地域貢献活動として、準備をしていきたいと考えています。

(5) ガバナンス視点

- ・札幌市の集団指導の資料をサービス提供責任者全員で確認、会議等で情報共有を行い、確実に行うべき業務の確認を行いました。
- ・サービス提供責任者としての経験が浅い職員もいるため、業務内容及びモニタリングや訪問介護計画書の作成状況の確認を行いました。サービス提供責任者のヘルプ活動と事務作業のバランスを図るための調整を継続していきます。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	サービス提供責任者兼務
サービス提供責任者	3	2	1	0	0	介護福祉士3名
登録ヘルパー	16	0	0	16	0	介護福祉士13名

【職員体制の変遷】

	2022年度	2021年度	2020年度
サービス提供責任者	3	3	4
登録ヘルパー	16	16	20
計	19	19	24

【職員の資格状況】

	2022年度	2021年度	2020年度
介護福祉士	16	15	19
ホームヘルパー 1級	0	0	0
ホームヘルパー 2級	3	4	5

(2) 職員研修実施状況（外部研修及び合同事例検討会）

ヘルパー会議内研修

開催日	研修名	主催	参加職種
2022. 4. 23	記録について	事業所	ヘルパー19名
2022. 5. 21	高齢者の身体を知る	事業所	ヘルパー18名
2022. 6. 25	高齢者虐待	事業所	ヘルパー17名
2022. 7. 23	口腔ケア・食事介助で「食べる」を考える	事業所	ヘルパー17名
2022. 8. 27	熱中症と食中毒を防ぐ	事業所	ヘルパー16名
2022. 9. 24	利用者にとって最良の緊急対策を考える	事業所	ヘルパー16名
2022. 10. 22	事故再発防止（組織で取り組む・全員で共有する）	事業所	ヘルパー16名
2022. 11. 26	認知症の人への気持ちに寄り添う	事業所	ヘルパー17名
2022. 12. 24	高齢者の冬の健康管理～ヒートショック・感染症・低体温症～	事業所	ヘルパー17名
2023. 1. 28	倫理・法令遵守は1人ひとりの「守ろう」という意識から	事業所	ヘルパー17名
2023. 2. 25	看取りケアを支えられるホームヘルパーに	事業所	ヘルパー17名
2023. 3. 25	接遇の基本「言葉づかい」を見直そう・ハラスメント対策	事業所	ヘルパー18名

(3) 利用者状況

① 介護保険制度 訪問介護事業 利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非該当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	12	11	11	11	12	12	11	12	11	10	9	9	131
要支援2	9	10	11	12	12	12	12	14	15	15	15	14	151
要介護1	25	25	26	27	25	25	25	24	23	25	24	25	299
要介護2	9	11	10	9	8	7	8	7	6	6	7	8	96
要介護3	5	5	4	4	6	6	7	7	6	5	5	6	66
要介護4	3	3	3	3	2	2	2	4	4	3	2	2	33
要介護5	3	3	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	43
計	66	68	67	69	69	68	69	72	69	68	66	68	819

② 障害福祉サービス 利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	19
	区分3	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	区分4	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	4	3	4	5	3	3	4	4	4	5	5	6	50
重度訪問	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	4	39
移動支援	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2

(4) 実習生受入れ状況

新型コロナウイルス感染対策により休止

(5) 地域貢献事業

新型コロナウイルス感染対策により休止

介護予防センター石山・芸術の森 ～ since 1995 ～

1. 事業報告総括

2022年度は、新型コロナウイルスの感染対策を実施したうえで、1年を通して介護予防センターとしての地域活動を実施することができました。地域によっては、コロナ禍での活動に積極的ではない地域もありましたが、地域の状況と地域性に合わせた支援をすることができ、充実した1年となりました。2023年度は、新型コロナウイルスの考え方が大きく変化することとなりますので、地域性に合わせつつも、積極的に事業を展開していきます。

(1) 総合相談支援業務

ア 総合相談

年間の延べ相談数が2021年度の32件から2022年度は50件に増えました。これは、当センターの支援活動が活発になったことと長期間の自粛で高齢者の体力が落ちやすくなり不安な方が増えたためと考えられます。今後も気軽に相談して頂けるよう、地域で一番身近な総合相談窓口を目指して周知活動を行います。

イ 介護予防が必要な対象者の実態把握及び地域におけるネットワークの構築

両地区とも民生委員児童委員定例会に伺い、介護予防の周知をして地域におけるネットワークの構築を図りました。また石山地区は昨年を引き続き、地区社会福祉協議会の協力を得て、当センターの事例紹介を行いつつ、町内会役員より日頃の見守り活動状況を聞き、実態把握に努めました。芸術の森地区は、地域住民や関係機関と相談しながら、介護予防センターや関係機関の役割チラシの作成を行いました。

(2) 介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発業務

ア 介護予防教室の実施

当センター主催である転倒予防体操教室は、コロナ禍の影響もなく予定通り年間95回実施しました。

イ 講演会や相談会等の開催及び広報物の発行

石山地区は、老人クラブ2団体にて介護予防の必要性についての講話やレクリエーションを行いました。また、地域の役員には、南区介護予防5センター合同での広報部にて作成した「閉じこもり予防」チラシを配布しました。芸術の森地区は、年に4回「介護予防だより」を発行し、町内会回覧にて介護予防の周知を図りました。

(3) 地域介護予防活動支援業務

ア 介護予防に資する多様な地域活動組織の育成及び支援

石山地区は、まちづくり協議会や福祉のまち推進センターの事業において、体力測定やゲーム大会の企画等を行いました。芸術の森地区は、町内会での体力測定と健康講話の企画と調整の支援を行いました。コロナ禍で停滞していた地域活動の再開を喜ぶ市民の声を聴くことができました。

イ 介護予防活動における高齢者の役割と活動の場づくりの支援

石山まちづくりセンターの協力を得て、石山地区の転倒予防教室参加者による作品展示を行うことにより、年間を通して4回、社会参加の場を増やすことができました。参加人数について4月は25名、7月は22名、10月は16名、1月は31名となり、年間延べ参加数は76名となりました。展示場所は石山まちづくりセンターのブラックボードをお借りし、参加者以外の来館者にも好評とのことで2023年度も継続することとなりました。

(4) 専門職と連携した介護予防機能強化業務の実施

ア 自主活動を目指した介護予防教室の実施

老人クラブでの活動が実施できていない町内会から相談を受け、公園にて5月から9月まで介護予防教室を実施し、延べ参加人数は228名となりました。支援期間終了後、自主的に活動を継続することが決定し、冬期は町内会館で活動することとなりました。

イ 既存団体等における介護予防活動の継続に向けた支援の実施

石山地区にてサロン1団体、自主活動グループ2団体、芸術の森地区にて老人クラブへ1団体、合計4団体へ専門職と連携した体力測定や健康講話を行うことによって介護予防活動の推進ができました。

ウ 介護予防センターが主催する通年実施の介護予防教室における支援の実施

当センター主催の転倒予防体操教室にて、リハビリテーション専門職と連携した体力測定を実施し、13名の方が参加しました。また、歯科衛生士と連携した口腔体操や健康講話を行い、14名の方が参加しました。

(5) 地区地域ケア会議の開催

石山地区は「支え合いについての情報共有と意見交換」、芸術の森は「認知症夫婦を支える地域づくり」について、意見交換を行いました。今後も、「いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」の実現を目指した会議を開催していきます。

(6) その他

南区内介護予防5センター共催による「南区運動サポーター養成講座」、「運動サポーターフォローアップ研修」、「自主活動サポート教室」を実施しました。南区運動サポーター養成講座には、石山地区から2名、運動サポーターフォローアップ研修に石山地区から1名、自主活動サポート教室に石山地区から1名、芸術の森地区から2名と合計6名の参加があり、地域福祉活動の人材育成に取り組むことができました。

2. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
センター長	1	0	1	0	0	社会福祉士／精神保健福祉士／主任介護支援専門員 併設事業所管理者兼務
ケースワーカー	2	2	0	0	0	社会福祉士1名、社会福祉主事1名

(2) 年間業務状況

① 相談事業<相談種別・割合>

	件 数		2022年度 割合
	2022年度	2021年度	
介護保険制度	19	6	38%
介護保険制度以外	1	3	2%
介護予防	10	7	20%
保健福祉サービス	0	0	0%
認知症について	6	2	12%
心身の健康について	5	2	10%
家族の疾病・障がいに関する事	0	1	0%
住まいについて	0	3	0%
処遇困難	1	3	2%
その他	8	5	16%
計	50	32	

② 介護予防普及・啓発事業<転倒予防体操教室 開催状況>

実施回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
芸術の森会館	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
石山会館	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	1	24
アクロスプラザ	4	3	5	4	3	5	4	3	4	4	3	5	47
計	8	7	9	8	7	9	8	8	8	8	7	8	95

延べ参加者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
芸術の森会館	10	10	12	12	11	15	12	16	12	12	14	15	151
石山会館	36	29	32	26	20	28	23	45	32	32	28	14	345
アクロスプラザ	53	35	64	47	30	51	47	32	54	61	42	65	581
計	99	74	108	85	61	94	82	93	98	105	84	94	1,077

相談支援事業所グリーンハイム ～ since 2012 ～

1. 事業報告総括

2022年度より札幌市障がい者相談支援事業業務（南区）の委託を受け、札幌市委託事業所としての相談支援業務を行いました。具体的には、一般的な相談支援の他、地域向けの事例検討会の開催、指定相談室との交流会、SNS（slack）を活用した南区内相談室との連携強化、各障がい福祉サービス事業所への訪問、自立支援協議会の後方支援等、新たなネットワーク作り、南区内の相談支援専門員の質の向上に努めました。

また、札幌市委託業務の受託に伴い、相談支援専門員3名体制での事業運営となりました。札幌市委託業務としては、計画相談よりも地域のケアマネ業務が求められておりますが、南区内の相談支援事業所の計画相談受け入れ体制が整備されていないこともあり、ケースの移管が難しい状況となっております。

今後も丁寧な相談支援を継続していくと共に委託相談室の役割として、地域のケアマネを行うため、指定相談支援事業所と連携し、ケース移管に努めていきます。

2. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・ご利用者一人ひとりの価値観、生活様式等に配慮した相談支援を継続しました。その中で、事業所・ご家族とご利用者のニーズが一致しない場合、関係者と協力し、ニーズの一致に努めました。
- ・ご利用者のエンパワメントの視点に重点を置き、利用者一人ひとりにどこまでの支援が必要かを検討したうえで支援を実施しました。
- ・ご利用者の立場に立ち、ご利用者の意思を尊重したうえで、ケアマネジメントを実施しました。
- ・虐待防止の取り組みとして、虐待疑いやリスクの高いケースについて、早期に行政と情報共有するとともに、障害福祉サービスの再調整等、関係機関と連携した支援を行いました。

(2) 財務視点

- ・委託受託に伴い、安定した経営を行うことができました
- ・予算に近い計画・モニタリング実績となりました。

(3) 人材視点

- ・週1回ケースカンファレンスを行い、支援内容の報告、支援の必要性の確認、気持ちの整理等を行うことで、バーンアウトを防ぐように努めました。
- ・相談支援専門員の業務遂行状況に合わせ、定期的な個別面談を行い、相談員が抱えているジレンマ、課題を共有し、課題解決に向けて取り組みました。
- ・新型コロナウイルス感染対策を実施したうえで、研修に参加し、専門知識の習得に努めました。
- ・他委託相談室と連携を図り、交換研修を行いました。

(4) 地域貢献視点

- ・委託相談室として南区地域部会の後方支援を行い、関係機関とともに南区内の障がい福祉の向上に資する活動に取り組みました。
- ・町内会等で、障がいの理解を深めていただくための出前講座を行いました。
- ・指定相談支援事業所との定期交流会、SNS (slack) を使ったネットワーク強化を図りました。

(5) ガバナンス視点

- ・コンプライアンス対策として、職員個々と定期的な個別面談、業務状況の確認を行い、契約関係書類、経過記録、計画・モニタリング利用者の確認等を徹底しました。

3. 事業運営状況

(1) 専門職の配置状況

2023年3月31日現在

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非常勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	社会福祉士 主任相談支援専門員兼務
主任相談支援専門員	2	1	1	0	0	社会福祉士／介護福祉士
相談支援専門員	1	1	0	0	0	社会福祉士

(2) 職員研修実施状況（外部研修及び合同事例検討会）

開催日	会議・研修名	参加職種
2022. 4. 28	事例検討会	相談支援専門員 3名
2022. 6. 1	相談室ほまほ（中央区）への研修	相談支援専門員 1名
2022. 6. 2	清田区地域部会オンラインセミナー	相談支援専門員 1名
2002. 6. 30	神経筋疾患分野ネットワーク分野	相談支援専門員 1名
2022. 7. 12～14	ほっと相談センター（南区）への研修	相談支援専門員 1名
2022. 8. 29～31 10. 28～29	相談支援従事者研修初任者研修（ファシリテーター）	相談支援専門員 1名
2022. 9. 30	遺伝カウンセリング難病患者・家族への関りの実際	相談支援専門員 1名
2022. 11. 9	移行期医療シンポジウム	相談支援専門員 1名
2022. 11. 28	南区要保護児童対策地域虚偽会	相談支援専門員 1名
2022. 12. 9	高齢者 依存症研修会	相談支援専門員 2名
2022. 12. 14	オレンジリボン地域協力員全体研修会	相談支援専門員 2名
2022. 12. 20	南区在宅ケア連絡会	相談支援専門員 3名
2023. 1. 26	医療的ケア児等支援者養成研修	相談支援専門員 2名
2023. 1. 31	札幌市ヤングケアラー支援研修実践編研修	相談支援専門員 1名
2023. 3. 2	自死遺族支援研修会	相談支援専門員 2名
2023. 3. 15	北区地域部会全体会	相談支援専門員 1名
2023. 3. 17	「人材育成」と「スキルアップ」研修	相談支援専門員 3名

(3) 利用者状況

① 障がい別内訳

身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	計
118	2	154	53	6	5	10	3	351

② 支援方法別内訳

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別ケース会議	関係機関	その他	計
支援件数	862	5	54	537	78	36	748	8	2,328

③ 相談支援給付件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2022年度	72	38	62	51	47	98	51	57	55	73	60	56	720
2021年度	75	61	75	74	64	89	62	62	74	65	65	63	829

